株式会社 東京ドーム

TOKYO DOME GROUP REPORT 2016

東京ドームグループレポート 2016












What we are aiming

東京ドームグループが目指すもの

当社グループは、いつの時代にもほかに先駆けてさまざまなレジャー施設とサービスを多くの人々に提供してきました。これからも、お客様の安全・安心を確保して心から楽しんでいただける都市型レジャーを追い求め続けることを社会的な使命ととらえ、レジャー・サービス業のリーディングカンパニーとして、限りなく前進していきます。









経営理念

企業目的

私たちは人と ひと とのふれあいを通して
お客様と「感動」を共有し　豊かな社会の実現に貢献します

経営方針

∞ 新しい価値を創造する活力と豊かな対話を求め ∞

- 日々新たな気持ちで仕事に取り組み、前進しよう
- 明日のさらなる発展のために、今日の目標を達成しよう
- お客様の声に耳を傾け、誠意をもってお応えしよう

CONTENTS

02 東京ドームグループの歴史

04 東京ドームグループの事業展開

06 [人を集める3つの力] 1 立地力

08 [人を集める3つの力] 2 施設力










安全理念

東京ドームグループは、お客様と「感動」を共有するために、安全を第一に考え、行動します

安全基本方針

- 安全で楽しい施設とサービスの提供を追求し続けます
- 安全について私たち自身で基準を設定し遵守します
- 安全のための教育訓練に積極的に取り組みます





10
[人を集める3つの力]
3 イベント力

12 施設紹介
22 トータルソリューション
23 Data Part
24 新中期経営計画「新機軸」
26 トップインタビュー
30 CSR
34 事業別業績ハイライト
36 事業別内訳参考データ一覧
38 経営成績と財務状況
40 連結財務ハイライト
42 個別財務ハイライト
43 会社概要／株式情報
44 グループ会社紹介
45 沿革

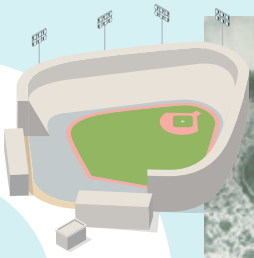
- 当レポートに記載されている将来の計画や見込み数値などは、当社が現在入手可能な情報に基づく見通しであり、経済動向や事業環境、消費動向の影響を受けるリスクや不確実性を含んでいます。
- 当レポートは原則として2016年1月期終了時点の情報に基づき作成しています。
- 金額は単位未満を切り捨て、パーセント・倍率は四捨五入して表示しています。
- 営業情報は変動する場合があります。最新の情報はHPでご確認ください。(www.tokyo-dome.co.jp)

東京ドームグループの歴史は、お客様との「感動共有」の

当社グループの歴史は、1936年に株式会社後楽園スタヂアムを創立したことから始まります。
その翌年には後楽園スタヂアム（以下、後楽園球場）が誕生。現在では世代を問わず、多種多様なニーズに
お応えできるさまざまな施設を有するグループとなりましたが、始まりはたったひとつの球場でした。

このひとつの野球場から、グループの歴史が始まりました







1937年

東京の真ん中に「後楽園球場」が誕生。当時はまだ屋根のない球場だったのはもちろん、プロ野球全8球団の公式戦が開催されていました。



1940年代









野球以外のレジャー施設も、球場の周りに次々と誕生！

「後楽園ゆうえんち」「後楽園競輪場」「後楽園プール」など、さまざまな楽しみの場をつくりました。



日本各地でレジャー施設を展開していきました

1960年代

「熱海後楽園」をはじめ、「石打後楽園スキー場」「石打後楽園カントリークラブ」など、各地にレジャー施設をつくりました。





歴史です。









2010年～

新たな「楽しみ」を次々と創出し、お客様と感動を共有

屋内型キッズ施設「ASOBono！（アソボーノ）」、屋内型スポーツ施設「スポドリ！」、宇宙ミュージアム「TeNQ（テンキュー）」、フードコート「GO-FUN（ゴファン）」をはじめ、あらゆる世代がともに楽しめる施設をつくりました。









2000年代

ゆったり過ごせる街「東京ドームシティ」へ

観光の拠点「東京ドームホテル」が誕生。エンタテインメント型融合施設「LaQua（ラクーア）」や複合施設「MEETS PORT（ミーツポート）」もつくり、癒しやくつろぎをテーマにした空間が生まれました。





1990年代

東京ドームを中心に“街づくり”がスタート！



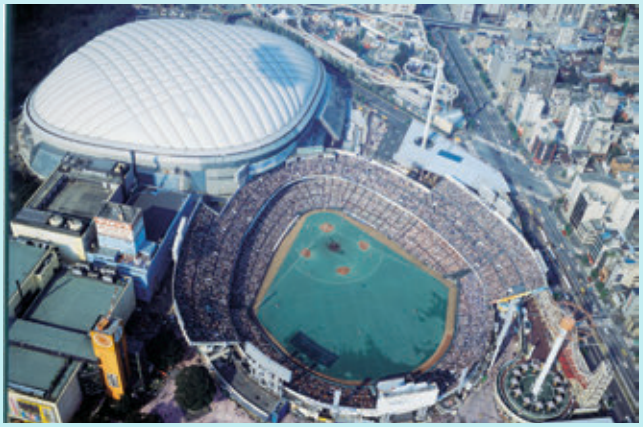
「PRISM HALL（プリズムホール）」や地下遊園地「ジオポリス」など、雨天でもお客様に楽しんでいただける街づくりを目指しました。

1980年代

一年中天気を気にせず、さまざまなイベントを開催！

日本初の全天候型多目的スタジアム「東京ドーム」が誕生。雨天の心配がなくなったため、イベントやコンサート会場としての利用が増えました。





後楽園球場とできたばかりの東京ドーム

東京ドームグループは7つのセグメント

あらゆる世代のお客様に感動を届けるべく、80年にわたり進化を続けてきた
当社グループは、現在7つのセグメントで事業を展開しています。
グループの中核である東京ドームシティ事業をはじめ、多種多様な事業をご紹介します。

2016

東京ドームグループのサービス一覧

ホール
●東京ドーム　●TOKYO DOME CITY HALL
●後楽園ホール　●PRISM HALL
●シアターGロッソ　●東京ドームホテル「天空」

ホテル
●東京ドームホテル　●熱海後楽園ホテル
●東京ドームホテル 札幌

アミューズメント
●東京ドームシティ アトラクションズ
●ASOBono！　●宇宙ミュージアム TeNQ
●ヒーローショー(シアターGロッソ)

スポーツ
●スポドリ！　●東京ドームボウリングセンター
●東京ドーム ローラースケートアリーナ
●フィットネスクラブ東京ドーム
●後楽園スポーツクラブ調布
●後楽園スイミングスクールひばりヶ丘

テナント施設
●LaQua　●MEETS PORT　●後楽園ホールビル
●黄色いビル　●アドホック新宿ビル
●プチモール二ツ木　●柿の木坂BMWビル

スパ
●Spa LaQua(スパ ラクーア)

競輪
●松戸競輪場　●サテライト大和
●サテライト船橋

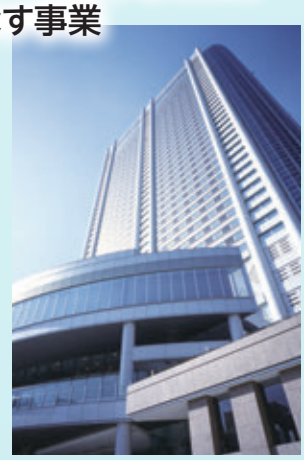
流通
●shop in(ショップイン)

運営受託
●スポーツ施設・文化施設等の運営・管理
●イベント企画など

東京ドームシティ事業

ランドマークである東京ドームを中心とした
当社グループの中核をなす事業















東京のランドマーク的な存在でもある「東京ドーム」をはじめ、「東京ドームシティ アトラクションズ」「LaQua」「MEETS PORT」「黄色いビル」「東京ドームホテル」といった施設を展開しています。これらの多種多様な施設のラインナップが、お客様の回遊性を高めて各施設の相互利用などの相乗効果をもたらしています。

で多様な事業を展開しています。

熱海事業



天然温泉リゾート
熱海後楽園ホテルを運営

東京から新幹線で約50分のオーシャンビューホテル「熱海後楽園ホテル」を運営する事業です。新鮮な海の幸と天然温泉、ホテルと旅館の良さを兼ね備えた心温まるホスピタリティを提供しています。

札幌事業



東京ドームホテル 札幌を
札幌の中心部で運営

大通公園に隣接したリゾート型シティホテル「東京ドームホテル 札幌」を運営する事業です。札幌の中心部に位置し、観光はもちろんビジネスにも大変便利な立地です。地上50mのアトリウムロビーは、開放感あふれる癒しの空間となっています。



セレクトコスメショップ
shop inを全国展開

流通事業

「Your Beauty Concierge ～いつもあなたのキレイのために～」をコンセプトに、上質なコスメや旬のビューティーアイテムを取り揃えたセレクトコスメショップ「shop in」を運営する事業です。全国で約40店舗を展開し、美容に関心の高い女性から多くの支持を得ています。



テナントビルや商業施設で
不動産収入を獲得

不動産事業

首都圏を中心に、アドホック新宿ビルやプチモール二ツ木の商業施設、代々木や市ヶ谷のオフィスビルなどを保有して、主に賃貸および管理業を展開しています。

競輪事業



松戸競輪場を運営
太陽光発電事業にも参入

千葉県松戸市にある松戸競輪場の賃貸および競輪施行者からの運営受託事業です。競輪場運営の高いノウハウにより競輪の発展に努めています。また、松戸競輪場のほかにサテライト大和（宮城県）等の専用場外発売事業も行っています。

その他



公共および民間施設の運営・管理
幅広い分野の事業を展開

その他事業は、生命・損害・医療保険代理店事業、有価証券の保有・管理事業、有線テレビジョン放送事業や、スポーツ施設の直営、および計100件以上の運営受託などから構成されています。

東京ドームシティには、「人を集める」力があります。

1 [人を集める3つの力] 立地力

アクセスに恵まれた「都心立地」。あらゆる世代が集まります。

都心という良質で、昼夜間ともにボリュームあるマーケットに広大な敷地面積で展開しているため、あらゆる世代の人々が集まります。東京駅から約10分、JR・地下鉄の計5路線が乗り入れる好アクセスで、スポーツ、コンサート、ビジネスをはじめとしたビッグイベントの開催場所としても大きな競争力を有しています。

人が集まる周辺マーケットの魅力が、集客力に相乗効果を生み出しています。

東京ドームシティの所在地である文京区は、ほぼその全域がJR山手線内におさまる唯一の区という地理的優位性に加え、隣接する千代田区などの周辺マーケットとともに、多くのポテンシャルを有しています。高い集客力は、特色ある施設と、半径2kmの人口約20万人のマーケットポテンシャルとの相乗効果によって実現しているとも言えます。

東京ドームシティ・マーケットポテンシャル（東京23区ランキング）

文京区（人口※1 221,938人）

園児・生徒・学生数※2 ›› **総数 4位**

高校生 3位　大学生・大学院生 2位

平均世帯年収※3 ›› **4位**

犯罪が少ない街※4 ›› **1位**

[関東] 住みたい行政市区ランキング※5 ›› **関東5位**

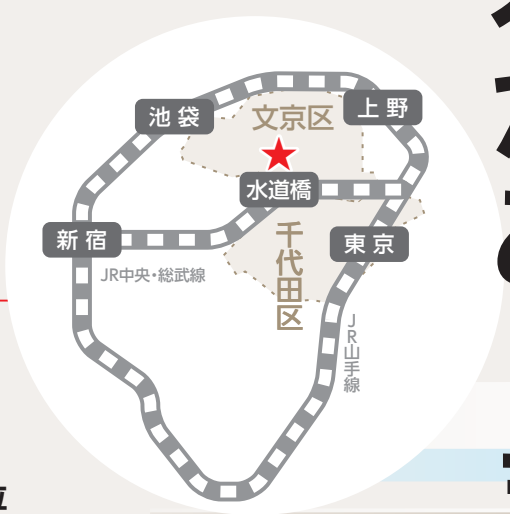
千代田区（人口※1 59,035人）

昼間人口※6 ›› **2位**

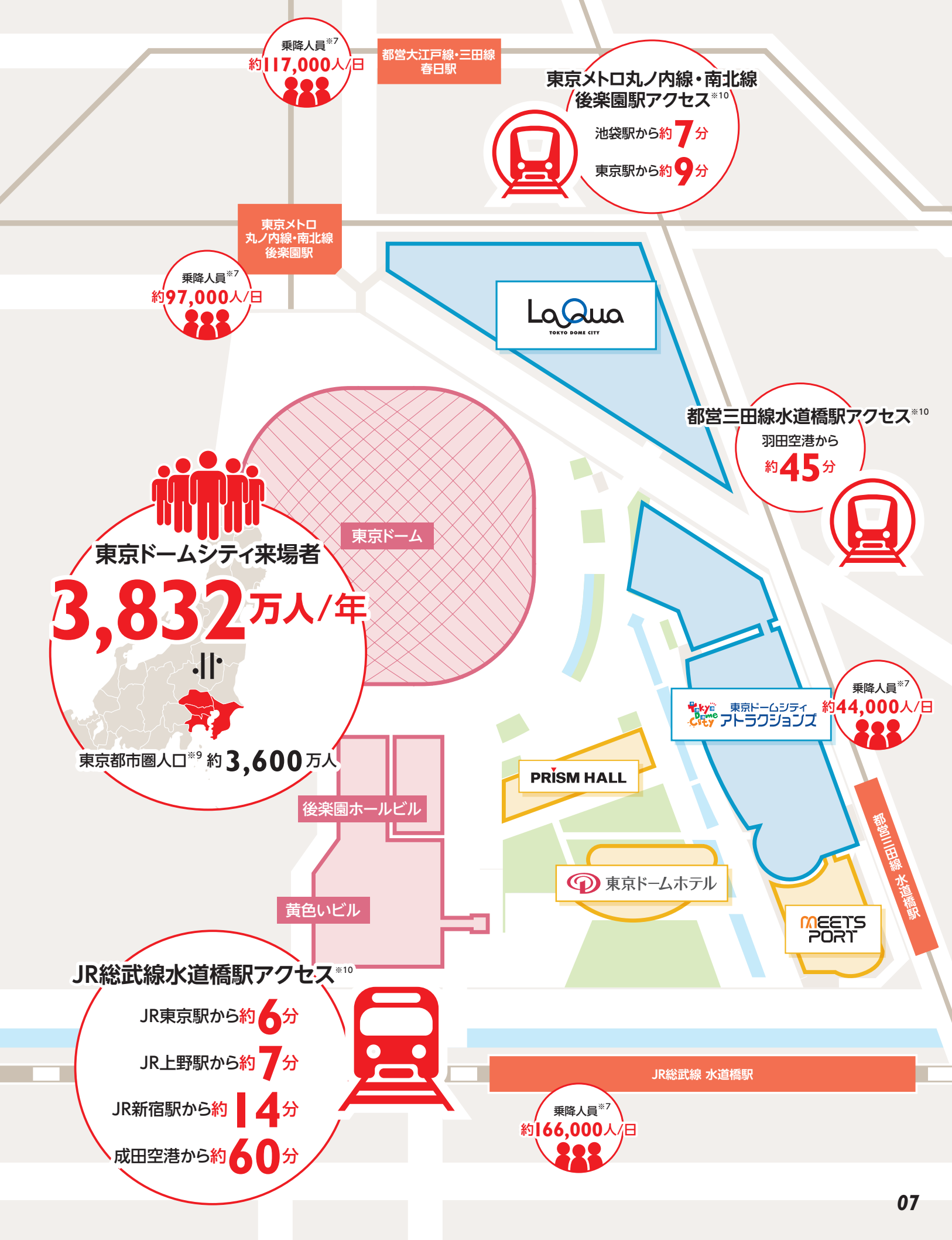
JR駅、地下鉄駅の乗降人員※7 ›› **1位**

平均世帯年収※3 ›› **1位**

首都圏「値上がりする」街ランキング※8 ›› **首都圏1位**



※1 東京都総務局「東京都の人口（推計）（平成28年5月1日現在）」より　※2 文部科学省「平成25年度学校基本調査」のデータを基に作成。総数は園児、小学校・中学校・高等学校の生徒数、大学生（大学院生含む）、専修学校生の総数　※3 総務省「平成25年 住宅・土地統計調査」のデータを基に算出した推定概算値　※4 警視庁「自治体別刑法犯発生状況（平成26年）」　※5 2016年版みんな選んだ住みたい街ランキング（リクルート住まいカンパニー調べ）　※6 東京都総務局「地域、昼間・夜間、男女別人口（平成22年）」　※7 JR東日本「各駅の乗車人員（2014年度）」、東京メトロ「各駅の乗降人員ランキング（2014年度）」、東京都交通局「各駅乗降人員一覧（2014年度）」のデータを基に作成。JR東日本は乗車人数のみ公表のため、乗車人員数を2倍し算出　※8 プレジデント 2013.4.15号「首都圏「値上がりする街」ランキング」　※9 東京都・千葉県・埼玉県・神奈川県の各都県の2016年5月1日現在の人口推計より算出　※10 各所要時間には乗り換え時間は含みません


乗降人員※7
約117,000人/日
都営大江戸線・三田線
春日駅
東京メトロ丸ノ内線・南北線
後楽園駅アクセス※10
池袋駅から約7分
東京駅から約9分
東京メトロ
丸ノ内線・南北線
後楽園駅
乗降人員※7
約97,000人/日
LaQua
TOKYO DOME CITY
都営三田線水道橋駅アクセス※10
羽田空港から
約45分
東京ドームシティ来場者
3,832万人/年
東京ドーム
東京都市圏人口※9 約3,600万人
乗降人員※7
約44,000人/日
東京ドームシティ
アトラクションズ
PRISM HALL
後楽園ホールビル
東京ドームホテル
MEETS PORT
都営三田線 水道橋駅
黄色いビル
JR総武線水道橋駅アクセス※10
JR東京駅から約6分
JR上野駅から約7分
JR新宿駅から約14分
成田空港から約60分
JR総武線 水道橋駅
乗降人員※7
約166,000人/日

［人を集める3つの力］

2 施設力

イベントがある日もない日も常に賑

東京ドームシティの魅力は、あらゆる世代をターゲットにした特色あ

東京ドームでのビッグイベントや、観光やビジネスの拠点となる東京

東京ドーム

さまざまなビッグイベントが
年間通じて開催
世代を問わず感動を届ける
全天候型多目的スタジアム

イベント開催数※1

年間244回

東京ドームシティ アトラクションズ ASOBono!

小さな子供から
中高生、大人まで
家族みんなが満足できる
レジャースポット

最速ジェットコースターランキング（日本編）※2
「サンダードルフィン」

第3位

2015年「いこーよ」おでかけスポット大賞※3
「ASOBono!」

全国9位





※1 2015年度実績　※2『インターネットコム』調べ（2015年5月5日発表）　※3 子供とおでかけ情報サイト『いこーよ』調べ　※4 2013年4月～2014年3月までのTDポイントカード会員のLaQua利用者数データより　※5 2015年11月11日付『日経MJ（流通新聞）』より　※6 トリップアドバイザー®の口コミで旅行者から高い評価を得ている施設に与えられ、5年連続で認定されると「殿堂入り」となる

わう、オールターゲットを魅了する施設が揃っています。

る施設が揃っていることにあります。観光やレジャー、ショッピングはもちろんのこと、

ドームホテル、ビジネス系イベントに最適な各種ホールなど、皆様の多様なニーズにお応えしています。

LaQua Spa LaQua

都会で働く女性に
リフレッシュを提供
多様な楽しみ方ができる
体験型スポット

「LaQua」来街者比率※4

30代女性No.1

第33回サービス業総合調査温浴施設部門※5
「Spa LaQua」

年間売上7位

東京ドームホテル

都心の好立地で
ビジネスパーソンの宿泊や
観光の拠点として利用
宿泊者からも高評価

トリップアドバイザー®
エクセレンス認証※6

6年連続獲得

殿堂入り



ビッグイベントが通年で開催！
プロ野球やコンサート、その他スポーツイベント、各種展示会などのビッグイベントが、年間を通じて数多く開催されています。

プロ野球

コンサート

その他のイベント

［人を集める3つの力］

3 イベント力

春



GIANTS開幕祭

巨大展示やスタンプラリーなどイベントが満載！ 監督・選手が登場するステージも実施！

夏



夏休み毎日イベント

お子様の夏休みの宿題にも役立つ体験イベントを、各施設・店舗で開催。



イースタン・リーグ

グラウンドでベースランニングが楽しめる。入手困難な人気シートも発売。

秋



ハッピーハロウィン

キッズパレードをはじめ、仮装で盛り上がれる秋の定番イベント。東京ドームシティ アトラクションズのマスコットキャラクター「ドンチャック」も大活躍。

冬



©L5／YWP・TX

妖怪ウォッチ もんげ〜! 冒険タウン

集めた妖怪をメダルで召喚！ 妖怪ウォッチを体感できるラリーイベント。



テーブルウェア・フェスティバル

日本の名窯から海外ブランドまで、テーブルウェアが一堂に会する祭典。

東京ドームシティならではの多彩なイベントを年間通して開催しています。

キッズ・家族、カップル、シニアといったさまざまなターゲットに向け、プロ野球やコンサートなどのビッグイベントだけでなく、オリジナル性の高いイベントを、年間を通じて発信し続けています。施設ごとに開催されるアニバーサリーイベントも見逃せません。



©2015 テレビ朝日・東映AG・東映

GWスタンプラリー

東京ドームシティを巡ってスタンプを集めるファミリー向けGWイベント。



卒業生いらっしゃい 卒パ

ワンデーパスポートにお得なクーポンが付いた「卒業生スペシャルチケット」を販売するなど卒業シーズンの定番イベント。





©諫山創・講談社／「進撃の巨人」製作委員会

リアル脱出ゲーム

謎を解いて遊園地から脱出！2015年は「進撃の巨人」とタイアップ。



わくわく！ウォーターガーデン

夏休み限定でびしょぬれ間違いなしのお子様向けの水遊び広場を開催。



夏期限定お化け屋敷

毎年恒例、お化け屋敷プロデューサー・五味弘文氏のお化け屋敷が登場！

©I・T・A・T・T

Wヒーロー夏祭り

仮面ライダーとスーパー戦隊が登場。ステージやプレイコーナーが楽しめます。

アニバーサリーイベントも開催

毎年記念イベントも施設ごとに開催しています。お得で楽しいサービスが満載！



LaQua 12th Anniversary

オリジナルグッズのプレゼントをはじめ、さまざまなキャンペーンを展開。



MEAT PORT 8th ANNIVERSARY

各店がオリジナル肉メニューを提供するなど、「肉」がテーマのイベント。



東京ドームシティ アトラクションズ60周年 Thanks! 60th Anniversary

航空券などの豪華商品が当たるクイズや、思い出写真コンテストを開催。



ふるさと祭り東京

全国の有名な祭りと、300を超えるご当地の味が東京ドームに集結！



東京ドームシティ ウィンターイルミネーション

毎年テーマを変えて開催される冬の定番。2015年のテーマは、楽曲に合わせてイルミネーションが変化する「音と光のファンタジー」。



街バル in東京ドームシティ

東京ドームシティ各店自慢のグルメの食べ歩き・飲み歩きが楽しめます。

※2015年の開催実績です。

目的や用途に応じて使えるホールが多数揃っています。

日本初の全天候型多目的スタジアムである東京ドームをはじめ、最大3,000人超のキャパシティを誇るTOKYO DOME CITY HALLなど、東京ドームシティには予算や集客規模、さまざまな実施形態に対応可能なホールが多数揃っています。各ホールが有する設備やノウハウはもちろんのこと、東京都心という立地や利便性も大きな利点となっています。



全天候型多目的スタジアム「東京ドーム」

東京ドームシティの“顔”とも言える日本初の全天候型多目的スタジアム。
1988年の開業以来、野球はもちろんのこと、コンサートや展示会など年間を通して多種多様なビッグイベントが開催されています。全天候型のため、天候に左右されず安心して使用できます。

年間来場者数

8,464,000人

収容人数

55,000人

※催事により異なる

来場者数の推移



NEWS 創立80周年の節目に東京ドームを大規模リニューアル

2016年12月に創立80周年を迎えるにあたり、唯一無二の快適なスタジアムを目指して、開業以来初となる総事業費約50億円の大規模リニューアルを実施します。期間は2016年から2019年までの3年にわたり、スタジアムビジネスの拡充と東京ドームシティへの相乗効果を目的としています。

スタジアムでは日本初となるレザークロス仕様の2種類のシートを新設。内野観客席を全席改良し、アリーナ照明をLED化するなど、「美」と「機能」をコンセプトに、快適性・安全性の向上、付加価値の高い商品・サービスの導入、省エネルギーの推進および環境負荷の低減を目的とした6つの整備を行います。



多機能ホール
「TOKYO DOME CITY HALL」

スタンディングで最大3,000人超のキャパシティを誇る、都心でも類を見ない多機能ホール。
臨場感と一体感にこだわり抜いた高性能の音響・照明システムを備え、コンサート、ミュージカル、映画、
格闘技、ビジネスなどさまざまな用途に対応。常に高い稼働率を維持しています。

年間イベント開催数
284回

ホール稼働率の推移



大宴会場
「天空」
収容人数
1,000人

正餐スタイルで583人、ブッフェなら1,000人まで利用できる東京ドームホテルにある大宴会場。主に宴会および学会・研修や、婚礼に使用されます。「天空」のほかにも中・小規模の宴会場を有し、多様なニーズにお応えしています。



イベント・展示会場
「PRISM HALL」
フロア面積
2,809㎡

最大約2,000人収容のビジネス・展示会系イベントなどあらゆる用途に対応可能なホール。1件あたり1日～2週間行われるイベントが年100件以上開催されています。屋内の搬出入口が会場と直結し、天候に左右されないなど利便性に優れています。



多目的ホール
「後楽園ホール」
年間イベント開催数
401回

いわずと知れた格闘技の聖地「後楽園ホール」。リングを外せば新商品発表会やダンス競技会など多種多様なイベントにも利用される多目的ホール（最大収容人数 2,005人）です。コンパクトな広さの「後楽園ホール展示会場」も備えています。



劇場
「シアターGロッソ」
ヒーローショーの年間開催数
439回

35年以上開催されてきた戦隊ヒーローショーの準専用劇場。ミュージカルや音楽イベントなどのイベントにも使われます。765人まで収容でき、照明・音響などの基本設備を備えることで、研修やセミナー、講演会にも対応しています。

家族や友人と一日中楽しめるバラエティ豊かなコンテンツ。

東京ドームシティ アトラクションズを中心に、小さなお子様を含めた家族からカップル・友人など大人同士、シニアまで、さまざまなお客様に楽しんでいただけるバラエティ豊かなコンテンツが揃っています。観光・レジャーなど非日常を体験できるのはもちろんのこと、都心の真ん中の憩いの場所として、気軽に利用することもできます。



入園無料の都心の遊園地
「東京ドームシティ アトラクションズ」

小さなお子様から大人まで、フリーゲート（入園無料）で1日みんなが楽しめる遊園地。
園内にはセンターレス大観覧車「ビッグ・オー」や最高斜度80度で急降下する「サンダードルフィン」など
24種類のアトラクション。365日休まず営業し、お客様をお待ちしています。

アトラクション利用者数

15,000人/日

利用者数の推移



都内最大級の屋内型キッズ施設

「ASOBono!」

親子が一緒に楽しめる、都内最大級の屋内型キッズ施設。5つのエリアには、ボールプールやトランポリンなどの身体を使って遊ぶコーナーから、頭を使う知育ゲームコーナーやままごとコーナー、乳幼児専用エリアもあり、お子様の成長や性格に合わせて楽しめます。家族力がアップする仕掛け満載の施設です。

定員

500人

来場者数の推移

NEWS 開業5周年を記念してリニューアルオープン

2016年8月に迎える開業5周年を記念し、館内の一部リニューアルと新遊具導入を実施し、2016年7月2日にリニューアルオープン。ウレタンブロックの組立遊びやボールプール内に回転遊びを導入するなど新たな遊びが加わってパワーアップ。







スポドリ!

野球、ゴルフ、ボルダリングの3つのスポーツを同一施設内で楽しめる、屋内型スポーツ施設。本格志向まで対応できる最新の設備と、上質な空間、インストラクターの親切・丁寧な指導により、お客様の「楽しむ」「習う」「鍛える」というニーズにお応えしています。同じ黄色いビル内の下記スポーツ施設との相乗効果も図っています。

東京ドームボウリングセンター



54レーンからなるボウリングセンター。すべてのレーンにオートスコアラーシステム、ノンガターのシステムを備え、お子様がいるファミリーから会社単位の大人数の大会まで、幅広いニーズにお応えしています。

東京ドーム ローラースケートアリーナ



都内最大級の屋内ローラースケートリンク。思い切り滑れるなめらかな最高品質のフラットリンクと、小さなお子様や初心者でも安心して楽しめるミニリンクがあります。各所に仕掛けられたライティングと音楽で、楽しさを演出します。

癒し・学び・滞在型施設。新しい楽しみを提案します。

東京ドームシティは、イベントやアミューズメントだけではありません。開業13年、上質な空間へと進化し続けるSpa LaQuaや、東京大学と連携し宇宙の真の姿に迫るTeNQなど、新しい癒しと学びの空間を提供しています。さらに、都心の好立地を活かした東京ドームホテルは観光・レジャーやビジネスなどあらゆるシーンの拠点として利用されています。



都会の真ん中で天然温泉
「Spa LaQua」

「女性に優しい、女性に嬉しい」「本物至上主義」「安全。だから安心」の3つの考え方のもと、心身ともにゆったりくつろげるスパ・温泉施設。女性おひとりの利用でも安心して仮眠できる女性専用ラウンジを設けるなど、都会の真ん中で気軽にリフレッシュを楽しめる癒しの空間です。

年間来場者数
750,000人

来場者数の推移

NEWS 上質な癒しの空間へリニューアル

2015年4月より館内の一部を改装し、より開放感のある上質な癒しの空間へリニューアルしました。「リラクセーションスペース」では、ラウンジをラグジュアリーな空間へと一新。「ヒーリング バーデ」では、プラネタリウムを備えた休憩スペース「惺空洞」をつくるなど、計3エリアを改装しています。

「宇宙を感動する」仕掛けが満載

「宇宙ミュージアム TeNQ」

「宇宙を感動する」というコンセプトのもと、お子様からシニアまで幅広い層のお客様が、
楽しみながらさまざまな視点から宇宙を体感できるミュージアム。9つのエリアそれぞれの切り口で宇宙に迫り、
特に大型円形高解像度シアター「シアター宙（ソラ）」での、壮大な宇宙の映像は圧巻です。

宇宙を見下ろす直径 11mの 4K スクリーンで宇宙を感じる



NEWS 東京大学総合研究博物館と連携

東京大学総合研究博物館と連携し、サイエンスゾーンにリサーチセンターを設置。実際の研究者がそこで最先端の研究にあたり、プロセスも含めて見せる新しいコミュニケーションを提供しています。家族で楽しめるイベントや、有名コンテンツとタイアップした企画展にも力を入れています。



多目的に利用できるシティホテル

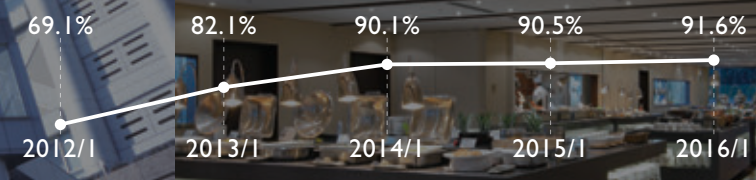
「東京ドームホテル」

多彩なレストラン・バーやオリジナリティ豊かな宴会・婚礼プラン、1,006室のゲストルームを備えた
地上43階建てのシティホテル。5つの駅に囲まれた都心のどこに行くにも便利な好立地で、
観光・レジャーやビジネスの拠点として国内外問わず多くの方に利用されています。

部屋数

1,006室

客室稼働率の推移



集客コンテンツとの相乗効果を意識したテナントミックス。

10周年のリニューアルで今まで以上にニーズに応える施設へと進化を遂げた「LaQua」。レストラン、ホール、ガーデンという3つの機能を複合した施設「MEETS PORT」。これらテナント施設は、集客の最大の強みであるイベントホールやアミューズメント施設との相乗効果を意識しながら、常に顧客満足の最大化を目指しています。



エンタテインメント型融合施設
「LaQua」

ショップ&レストラン、アトラクション、スパの3つのゾーンが集結したエンタテインメント型融合施設。
2013年の開業10周年を記念した大規模リニューアルをはじめ、2016年3月には10店舗が新規および改装オープンするなど、常に「五感を刺激する」サービスを提供し続けています。

年間来街者数

15,000,000人

テナント売上高の推移（百万円）

※テナント数：約75店舗

複合施設

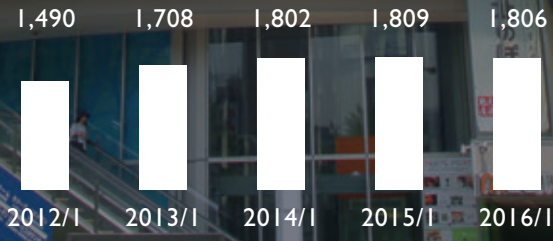
「MEETS PORT」

レストランやカフェ、居酒屋などが揃った「ダイニング」とTOKYO DOME CITY HALLを擁する「ホール」、
それを包み込むように広がる「ガーデン」という3つの機能を複合化した施設。
東京ドームシティ玄関口の好立地にあるため来場者数も多く、周囲や施設内のアートワークも見どころのひとつです。

❯年間来街者数

3,464,000人

❯テナント売上高の推移（百万円）



※テナント数：約10店舗





その他テナント

LaQuaやMEETS PORTのほかにも、東京ドームシティ全域には、数多くのショップやレストランが展開し、お子様から大人まで幅広いターゲットにバラエティ豊かなサービスを提供しています。これら数多くのテナントの存在が東京ドームシティ全体でのお客様の回遊性を高めています。

培ってきたノウハウを基に全国各地でサービスを提供しています。

当社グループは、東京ドームシティで培ってきたノウハウを活かしながら各地でサービスを提供しています。主に、「熱海後楽園ホテル」「東京ドームホテル 札幌」という2つのホテルや、全国に約40店舗展開しているセレクトコスメショップ「shop in」、そのほかにも競輪場やテナントビルなどを展開しています。



オーシャンビューホテル
「熱海後楽園ホテル」

東京から新幹線で約50分のオーシャンビューホテル。新鮮な海の幸と天然温泉はもちろんのこと、さまざまなリラクセーションや熱海名産を取り揃えたお土産街など、東京ドームグループらしいエンタテインメント性も誇ります。ホテルと旅館の良さを兼ね備えた心温まるホスピタリティも人気の秘密です。

年間宿泊者数

209,000人

客室稼働率の推移

リゾート型シティホテル

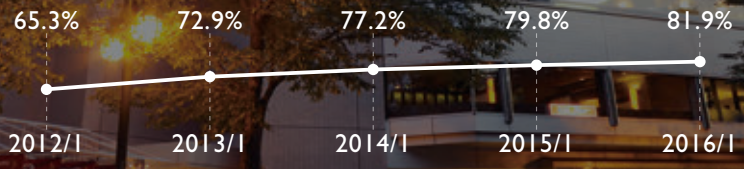
「東京ドームホテル 札幌」

札幌の中心部に位置する大通公園に隣接したリゾート型シティホテル。
観光はもちろん、出張などのビジネス利用にも大変便利な立地です。客室の窓からは大通公園の風景が間近で見られ、
1階から最上階の14階まで続く地上50mのアトリウムロビーは、開放感あふれる癒しのリゾート空間となっています。

›年間宿泊者数

150,000人

›客室稼働率の推移



shop in



上質なコスメと、トレンドや季節に合わせた旬のビューティーアイテムを取り揃えたセレクトコスメショップ。「Your Beauty Concierge ～いつもあなたのキレイのために～」をブランドコンセプトに、全国で約40店舗を駅ビルなどを中心に展開しています。

直営スポーツ施設



フィットネスクラブ東京ドーム、スポーツクラブ調布、後楽園スイミングスクールを直営にて展開しています。施設ごとにさまざまなプログラムを用意し、お客様の健康づくりをサポートしています。

松戸競輪場ほか



松戸競輪場は千葉県松戸市にある、駅から徒歩2分の競輪場。1周333mの特徴的なバンク（走路）を有し、60年以上もの長きに渡りファンに愛され続けています。また場外車券売場として、サテライト大和（宮城県）も保有しています。

テナントビル



首都圏を中心に複数のテナントビルを有しており、主な施設として、アドホック新宿ビル、プチモール二ツ木や柿の木坂BMWビルなどがあります。（写真は千葉県松戸市にある商業施設 プチモール二ツ木）

蓄積されたノウハウを活かし、質の高いトータルソリューションを提供しています。

東京ドームグループでは、一般企業や自治体のお客様に対し、
グループ各社が長年培ってきたイベント企画、スポーツ施設運営、施設管理などのノウハウを
ひとつにまとめたトータルソリューションを提供しています。
さまざまなジャンルの集客イベントやスクールプログラムの企画・運営、
ビル・施設などの保守・運営など質の高いサービスを展開します。

(株)東京ドーム



イベント企画／提案

- あらゆる施設の豊富な管理・運営実績
- 強力な集客力

(株)東京ドームスポーツ



プログラム構築・人材派遣

- スポーツクラブ・スパ・ミュージアム運営
- 専門的で経験豊かな人材

(株)東京ドームファシリティーズ



施設管理・維持

- ISO9001を取得した品質力
- クリーン・設備メンテナンス・セーフティ事業

グループの総合力で実現する
良質なサービスとコストパフォーマンス

主な業務受託実績

新規受託施設

- 静岡県草薙総合運動場
- 流山市民総合体育館
- 流山市体育施設8施設

既存受託施設

- 文京スポーツセンター・文京総合体育館・他5施設
- 板橋区立体育施設23施設
- 豊島区立南長崎スポーツセンター・中央公園・自転車駐車場
- 練馬区立中村南スポーツ交流センター
- 練馬区立平和台体育館・桜台体育館・他2施設
- 豊能町立総合体育施設
- 東村山市民スポーツセンター
- 松戸市小金原市民センター他7市民センター
- 流山市野々下福祉会館・思井福祉会館

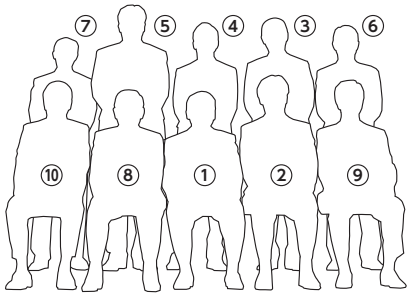
受託施設数
合計100以上

Tokyo Dome Group Report 2016
Data Part

新中期経営計画「新機軸」始動――

レジャー事業の拡大を見据えて経営資源の最適配分を進め、
持続的に企業価値を創出する100年企業を目指します。





①	代表取締役会長 執行役員	久代 信次	
②	代表取締役社長 執行役員	長岡 勤	
③	専務取締役 執行役員	野村 龍介	
④	専務取締役 執行役員	山住 昭宏	
⑤	常務取締役 執行役員	谷口 好幸	
⑥	常務取締役 執行役員	西勝 昭	
⑦	常務取締役 執行役員	小田切 吉隆	
⑧	取締役（社外・独立）	秋山 智史	
⑨	取締役（社外・独立）	森 信博	
⑩	取締役（社外・独立）	井上 義久	

※2016年4月27日現在

「新機軸」～次世代の価値創造に向けて～

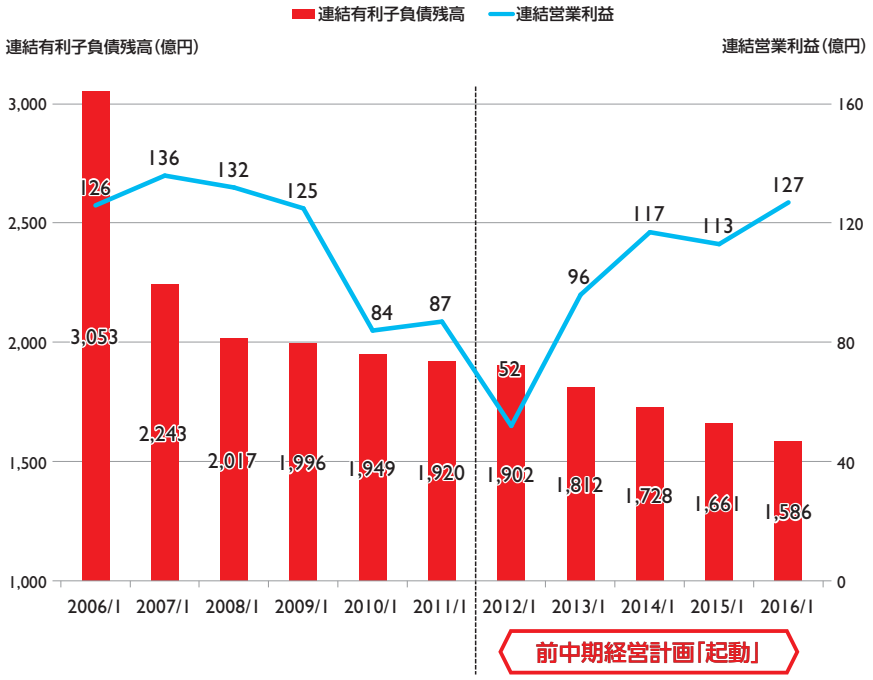
前中期経営計画「起動」の振り返り（2012年1月期～2016年1月期）

経営目標と実績

2016年1月期の連結営業利益
100億円
⇒3期連続で達成

2016年1月期の連結有利子負債残高
1,700億円
⇒1,586億円で達成
※ 単位未満を四捨五入しています。

配当性向30%を目途とする配当の実施
ならびに自社株買入消却
⇒復配・増配を実施、
配当性向30%に到達も
自社株買入消却には至らず



「新機軸」が目指す方向

2016年に創立80周年を迎える東京ドームグループは、「起動」で培った収益性を維持・強化しながら、レジャー事業においては良い経営環境が望める間に、5年後、20年後の創立100周年、そしてその先の将来に向けた準備を進め、東京オリンピック・パラリンピックなども契機に成長の軌道を描いていくことを目指します。

新計画において、中心となる軸をしっかりと保ちながら、従来のものとは異なるやり方や工夫に取り組み、次世代に向けた東京ドームグループの新たな価値創造を目指します。

この気持ちを込めて、タイトルを「新機軸」とし、「～次世代の価値創造に向けて～」というサブタイトルをつけました。



次世代の新たな価値創造へ

新中期経営計画「新機軸」の詳細は
http://www.tokyo-dome.jp/ir/strategy.html を参照ください。

4つの経営方針

［基本方針］ レジャー事業の拡大を見据えて経営資源の最適配分を進め、持続的に企業価値を創出する100年企業を目指す。

［投資方針］

安定的な収益基盤の底上げに向けて、**平均的な年間の投資規模を「起動」から拡大する。**さらに、ピークアウト事業およびノンコア事業も含め、**多元的に評価した事業性に基づき、資産の入れ替えを推進する。**

［財務方針］

よりキャッシュ・フローを重視する経営を行い、**投資は利益の範囲内で積み上げる。**

［株主還元方針］

経営環境の変化に関係なく株主への還元を安定化させるために、**「安定配当」と「収益連動配当」の二段階の株主還元方式を導入する。**

「新機軸」では、4つの経営方針の下、4つの経営目標の達成を目指す

4つの経営目標

収益性の向上

2021年1月期の
連結営業利益
130億円

財務体質の改善

2021年1月期の
連結有利子負債残高
1,390億円

資本運用の効率性

2021年1月期の
連結ROA（総資産経常利益率）4%、
連結ROE（自己資本利益率）6%

安定配当と収益に連動した配当

1株当たり12円
＋業績連動α※

経営目標の達成に対し、8つの経営課題を設定

8つの経営課題

1. 東京ドームシティ事業の利益水準の維持と拡大
2. 新たな成長戦略の研究開発と、東京ドームシティ事業以外の既存事業の成長
3. 人手不足への対応
4. 「安全文化」の浸透・保持
5. コーポレートガバナンス・コードとスチュワードシップ・コードへの対応
6. 「東京オリンピック・パラリンピック」「訪日外国人のお客様」への対応
7. 人口動態の変化に伴う消費行動の変容への対応
8. グループ経営体制の強化

※ 2016年4月27日の株主総会において、普通株式2株につき1株の割合で株式を併合することが決議されたことにより、これまで「1株当たり6円」と発表しておりましたが「1株当たり12円」に変更いたします。

新中期経営計画「新機軸」がスタート。次世代の価値創造に向け、さらなる一歩を踏み出します。



代表取締役社長 執行役員
長岡 勤

Q 2016年1月期の業績の振り返りと合わせ、前中期経営計画「起動」の総括をお聞かせください。

2016年1月期に最終年度を迎えた5ヶ年中期経営計画「起動」は、初年度に遊戯機器の事故や震災があり、かなり厳しい状況下でのスタートとなりましたが、グループ一丸となって取り組み、目標を達成することができました。新設した安全推進室が中心となり、グループ全体で安全・安心への体制づくりに注力したことが目標達成の礎となったと考えます。もちろん、さらなる安全・安心を追求する取り組みは必要ですが、この最優先課題に、自信の持てる手応えを得られたことが、事業成長を牽引する一助になったと感じています。

「起動」では、達成すべき経営課題として、「収益逓減傾向からの脱却」「新たな成長戦略の研究開発」「経営体質強化への取り組み」の3つを実行してきました。

1つ目の「収益逓減傾向からの脱却」では、「最終年度の連結営業利益100億円」という目標数値を計画3年目に前倒しで達成しました。以降、3年連続でこれを上回る業績を残せたことは、一定の利益を確保できる基盤を確立できたと認識しており、新中期経営計画「新機軸」の推進力になると考えています。

また収益力の向上に伴い、「経営体質強化への取り組み」も進みました。「連結有利子負債残高1,700億円」という目標も1年前倒しで達成し、2016年1月期には、1,586億円まで圧縮することができました。また、計画1年目こそは無配でしたが、2年目には1株当たり5円配当と復配を果たし、

2016年1月期業績ハイライト

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
85,875百万円 前期比3.2%増	12,737百万円 前期比13.0%増	10,636百万円 前期比16.4%増	4,559百万円 前期比38.7%減



4～5年目には1株当たり6円配当とする増配も叶いました。

「新たな成長戦略の研究開発」については、ASOBono!やスポドリ!、TeNQといったこれまでにない施設開発が進みました。しかしながら、成果は東京ドームシティ内に限られ、計画スタート時に期待していた外部での新たな展開については積み残したものと感じています。ただ、コンテンツを一度導入したら終わりでなく、内容自体をブラッシュアップし、新たな価値を加えることで、継続的に収益を上げていこうというモチベーションは、グループ全体でかなり高まってきており、今後の展開へ期待が持てる状況になってきていると感じています。

Q 5ヶ年の新中期経営計画「新機軸」で達成すべきテーマ、経営目標について教えてください。

「新機軸」というタイトルには、未来の会社の姿を想像しながら「軸を新しくつくろう」という気持ちを込めています。サブタイトルは「次世代の価値創造」としましたが、東京ドームグループが100年企業へと成長の軌跡を描いていくためにも、先を見据えながら、「方針を、今、ここでしっかり固めていこう」というのが、今回のテーマです。これまで以上に事業投資を増やし、積極的に新しいことに挑戦していきます。そして、前中期経営計画「起動」で積み残した「成長戦略としての外部事業への進出・新事業の開拓」を推進していきます。

経営目標としては、以下の4つの指標を掲げています。

1つ目は、「収益性の向上」を示す連結営業利益目標です。計画の1～3年目は、2016年8月の開業50周年を機とする熱海後楽園ホテルのみさき館・ホール棟の営業終了に伴い、現状の100億円レベルの維持を目標としています。そして続く4～5年目には、次なる施設の運営を開始させて130億円レベルにまで引き上げる計画です。投資すべきところにしっかり投資し、価値を高める取り組みを継続すること、新しい方向性“新機軸”を確立すること、その結果として利益を積み上げ、目標達成を目指していきます。

2つ目は、「財務体質の改善」として、引き続き連結有利子負債の圧縮に努め、残高を1,390億円までに低減させます。

3つ目は、「資本運用の効率性」を示す値として、5年後の連結ROA(総資産経常利益率)4%、連結ROE(自己資本利益率)6%を目標に掲げました。当社グループのように、大きな資産を持ち、その価値を常に高めながら、収益力を向上させる事業展開では、大掛かりな更新投資の実行、それに伴う減価償却費の発生もあります。また、アミューズメント施設の流行は移り変わりが早く、時流に合わない資産を維持しても収益を生まないことから、早々に新たな施設へと入れ替えていく必要もあります。その際には、資産の減却損などが発生する確率が高くなり、(親会社株主に帰属する)当期純利益の変動要因となるため、その結果、ROEの変動幅も大きくなります。そこで、変動要因の少ない経常利益を分子としたROAも合わせて目標指標に定めました。資産額が大きい当社グループにとって、ROAを引き上げるのは、確かに難しい挑戦ではありますが、着実に向上させてい

きたいと考えています。

4つ目は、「安定配当と収益に連動した配当」の実施です。1株当たり最低12円の安定配当をお約束するとともに、(親会社株主に帰属する)当期純利益が60億円を超えた部分について、収益連動型の配当を実施することとしました。これにより、事業成長の成果を直接的に株主還元へ反映していけると考えています。

Q 8つの経営課題と具体的な取り組みについて教えてください。

①東京ドームシティ事業の利益水準の維持と拡大

付加価値を高める施設リニューアルや設備更新への投資をこれまで以上に実施し、利益水準の維持・拡大を狙います。まず、東京ドーム開業以来初となる、座席や照明、音響システムなど大規模なリニューアルを実施します。また、開業から13年が経過したLaQuaや、東京ドームシティ アトラクションズのリニューアルも検討しています。同時に、これまで実施してきた新たなコンテンツの開発も加速させながら、安定的に利益を確保し、強固な事業基盤を築いていきたいと考えています。

②新たな成長戦略の研究開発と、東京ドームシティ事業以外の既存事業の成長

このテーマにおける最大の取り組みが熱海事業です。熱海後楽園ホテルのみさき館・ホール棟の営業は2016年8月末で終了となり、当面はタワー館のみの営業とします。みさき館・ホール棟の跡地は、旅行やリゾート滞在スタイルの変化にマッチした、次世代型の施設を計画しており、この「新機軸」期間中の開業、収益貢献を目指します。

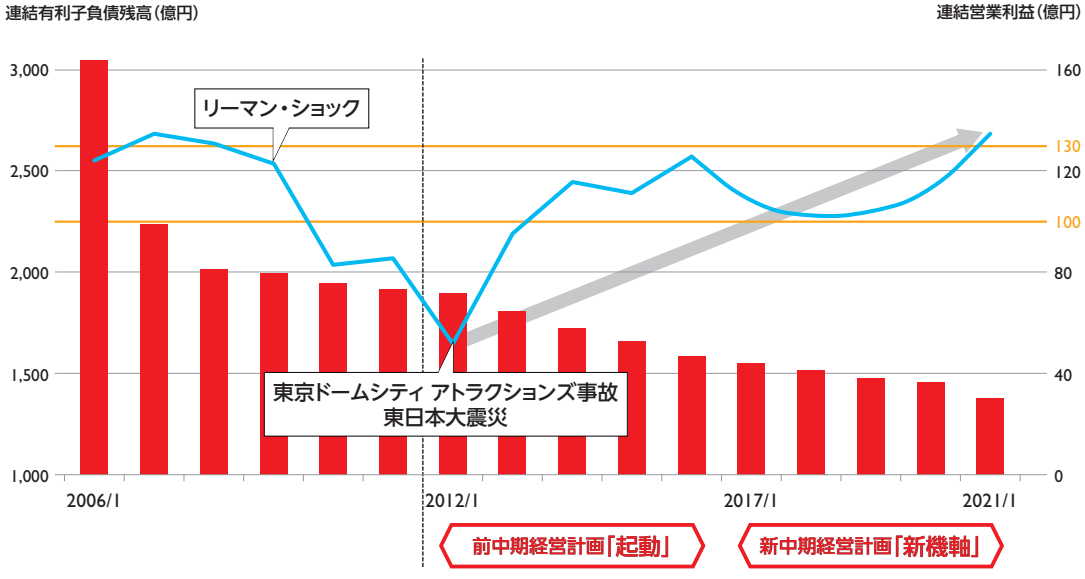
松戸競輪場でも耐震強化を含めた建物・設備のリニューアルを実施し、施設価値のポテンシャルを高めていきます。

そのほか、ハード面での取り組みではなく、東京ドームグループがこれまで培ってきたノウハウやコンテンツの商品化など、ソフト面での取り組みを強化し、新規事業として社会に提供していきたいと考えています。

③人手不足への対応

経営理念に“感動の共有”を掲げる当社グループ事業には、お客様とのふれあいの中で感動を共有できる「人」が絶対的に必要であり、人の育成は安全・安心と並ぶ大きなテーマです。この経営理念への理解を改めて促し、従業員一人ひとりが、意識を高め、現場スタッフの教育者になることが必要です。これをサポートするた

「新機軸」における連結営業利益と連結有利子負債残高の推移のイメージ



連結営業利益
プロ野球のポストシーズンゲームやオールスター等の開催は織り込まないことに加え、熱海後楽園ホテルがタワー館のみの営業となることから、計画中盤まではいったん減益を余儀なくされるも、「起動」で培った100億円の営業利益水準を維持。計画後半からの増益・リーマン・ショック前のレベルへの復活を目指す。

連結有利子負債残高
継続して圧縮。なお、「新機軸」期間中の設備投資は総額430億円を予定。

め、2月にグループ全体の教育を司る「東京ドームグループ教育センター」を開設しました。この教育機関を機能させ、サービスレベルの高い従業員を持続的に育成していきます。こうした真摯な取り組みは、離職率の低減への効果もあると期待しています。



④「安全文化」の浸透・保持

安全・安心の取り組みに終わりはなく、常に重点施策に記し、眼前に掲げ続け、一層のきめ細やかな対応を追求する姿勢が、これまでつくり上げてきた「安全文化」の形骸化を防ぐことになります。施設・設備の老朽化に対して先手を打つ更新投資の継続はもちろん、安全マネジメントシステムの推進と拡充、オリンピック開催を見据えたテロ対策の強化や、防災・防犯の教育、訓練活動の拡充も進め、「いつも安全・安心な環境を保ち続ける取り組み」をさらに強化していきます。

⑤コーポレートガバナンス・コードと
スチュワードシップ・コードへの対応

コーポレートガバナンス・コードの趣旨に沿ったガバナンス体制を設計するとともに、ステークホルダーの方々との対話を大切にしていきます。「新機軸」についても数字だけが一人歩きすることなく、私たちが目指しているもの、やり遂げたいことをしっかりとご理解いただき、当社グループに興味を持ち、応援していただける方を増やしていきたいと思っています。

⑥「東京オリンピック・パラリンピック」
「訪日外国人のお客様」への対応

誰もがいつでも気軽かつ快適に楽しめることを追求する当社グループでは、訪日外国人のお客様が増えている中、案内看板などのハード面の整備と合わせて、多言語化や免税対応などソフト面での整備を加速させていきます。

⑦人口動態の変化に伴う消費行動の変容への対応

少子高齢化が進展する日本において、高齢者の方に楽しんでいただけるコンテンツを提供することはもちろん、バリアフリーを意識したハードでのユニバーサル化も進めていきます。また、少子化が進んでいると言われる中でも、当社グループ施設には本当に多くの親子連れが訪れます。中高生、大学生をはじめ、各年齢層の方々に魅力的なコンテンツを提供することで、さらなる来場活性化を図っていきます。

⑧グループ経営体制の強化

投資方針に基づき、すべての事業について、常に事業性を多方面から総合的に評価し、グループとして最適な事業ポートフォリオを構築しながら、さらに機能を高めることを目指していきます。また、グループ間で情報を共有し、コンテンツの横展開やイベントの共同開催なども拡大し、グループとしての成長を加速させていきます。

Q 最後に、新社長就任の抱負と合わせ、ステークホルダーの皆様へのメッセージをお願いします。

新中期経営計画「新機軸」は、当社グループとステークホルダーの皆様の未来のために、これから何を行っていくべきなのか、次世代の価値創造に向け、その方向性を決めていくところからスタートしています。

これまでと同様のビジネスモデルだけでなく、別のやり方が必ずあると確信しており、5ヶ年のうちの1～2年目でその方向性"新機軸"を確立し、3年目以降、具体的に実現させていきます。この5ヶ年で、次世代の価値創造のための基礎をしっかり固めることが、私に与えられたテーマであると自負しているところです。引き続き、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

CSRへの取り組み

東京ドームグループでは、経営理念と安全理念を掲げ、企業の社会的責任の追求を念頭に、倫理指針であるコンプライアンス行動規範を制定して、CSRに積極的に取り組んでいます。






組織統治

お客様の安全・安心の確保とともにコーポレート・ガバナンスを充実させ、グループ全体の経営の透明性・健全性・効率性を高めていくことを重要な経営課題ととらえています。特に、各ステークホルダーの皆様と良好な関係を構築していくため、適時・適切に情報を開示していくことが重要と考えています。

主な取り組み

- 安全への取り組み
- コーポレート・ガバナンス
- コンプライアンス
- リスク管理

人権

「コンプライアンス行動規範」において、法令遵守はもとより、人権を尊重し、差別やハラスメントを行わない旨を定め遵守しています。

主な取り組み

- お身体の不自由なお客様の利便性向上への取り組み
- ハラスメント防止教育
- ダイバーシティ

労働慣行

従業員一人ひとりの能力が最大限に発揮できるよう、人材育成のためのさまざまな取り組みを推進し、安心して働ける職場環境の整備に努めています。

主な取り組み

- 能力開発システム
- 東京ドームグループ教育センターの設置
- EAPプログラム
- セカンドキャリア制度
- 両立支援への取り組み（育児・介護など）
- 一般事業主行動計画






環境

事業活動で発生する環境負荷の低減に向けて、さまざまな環境保全活動に取り組んでいます。環境に配慮したシステムの導入や専門組織の設置など、地球温暖化防止をはじめとする持続的な環境保全を積極的に推進しています。

主な取り組み

- 温暖化対策分科会
- ゴミ処理分科会
- 太陽光パネル設置
- 東京ドームシティの各施設における環境保全対策

公正な事業慣行

組織として社会的責任を果たすための公正な事業慣行の維持を重要課題として、各ステークホルダーの皆様の信頼に応えていきます。

主な取り組み

- 政治、行政、取引先との公正な関係の維持
- 内部通報制度
- 情報セキュリティ
- 個人情報保護
- 反社会的勢力の排除に向けた基本的な考え方

消費者課題

すべての事業においてお客様に安心して楽しんでいただける場を持続的に提供していけるよう、さまざまな対策を講じています。

主な取り組み

- 安全への取り組み
- 顧客満足に対する取り組み

コミュニティへの参画およびコミュニティの発展

イベントの企画、防災、定期的な地域の美化活動、文化事業の支援、自社施設へのご招待など、地域住民の方々に密着した幅広い取り組みを実施しています。

主な取り組み

- 地域の美化活動
- 文化事業への貢献
- 自社施設へのご招待
- 企業訪問の受け入れ
- 地域社会とのかかわり

コーポレート・ガバナンスに関してのより詳細な情報は
http://www.tokyo-dome.jp/csr/governance02.html を参照ください。

PICK UP コーポレート・ガバナンス

当社は、コーポレート・ガバナンスの充実により、企業グループ全体の経営の透明性、健全性、効率性を高めていくことが、持続的な企業価値の向上のために不可欠であり、当社グループの重要な経営課題ととらえています。特に、株主をはじめ、顧客、取引先、地域社会、従業員等のステークホルダーと良好な関係を構築していくために適時・適切に情報を開示し、企業活動の透明性を確保していくことは重要であると考えています。

当社は、基本的な仕組みとして監査役制度を採用することにより、取締役会による業務執行の監督と監査役会による監査を中心とした経営監視の体制を構築しています。また、取締役と監査役の報酬については、株主総会の決議により、取締役全員および監査役全員のそれぞれの報酬総額の最高限度額を決定しており、この点で株主の監視が働く仕組みとなっています。

なお、取締役の経営責任を明確化し、経営環境の変化に対応できる経営体制を機動的に構築するために、取締役の任期を1年にしています。

コーポレート・ガバナンス体制の概要

取締役会　取締役10名(うち、社外取締役3名)で構成され、当社の経営方針および業務執行を決定し、取締役および執行役員の職務の執行を監督する権限を有しています。

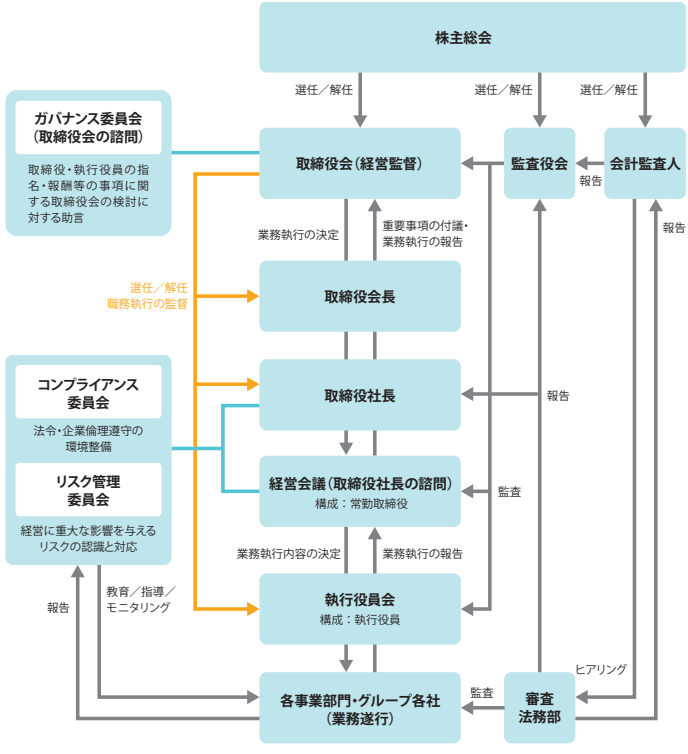
監査役会　監査役5名(うち、社外監査役3名)で構成され、監査に関する重要な事項について報告を受け、協議を行い、または決議をしています。各監査役は、監査役会が定めた監査の方針、業務の分担などに従い、取締役会およびその他の重要な会議に出席するほか、取締役等に営業の報告を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所には自ら赴き業務および財産の状況を調査しています。

経営会議　取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制の基礎として、常勤取締役全員によって構成される経営会議を設置し、取締役会に付議すべき事項の決定ならびに取締役会の決議事項に基づく取締役社長の業務執行に必要な答申を行っています。

執行役員会　戦略的・機動的な意思決定と業務執行を目指して執行役員制度を導入しています。執行役員は、取締役会で選任され、取締役会の決定に基づき社長が委嘱する担当職務の執行責任者としての責任と権限を有し、業務を執行しています。また、執行役員全員によって構成される執行役員会を設置し、取締役会および経営会議の決議事項を伝達し、社長の業務執行に関する情報交換・連絡・調整の円滑化を図っています。なお、現場・現実に根ざした意思決定と監督を行うため、監督と執行の完全な分離は施行せず、常勤取締役が執行役員として業務執行を担当するとともに取締役会に参画する体制をとっています。

ガバナンス委員会　取締役会の諮問機関として独立社外取締役を多数構成とするガバナンス委員会を設置し、取締役および執行役員の指名ならびに報酬等特に重要な事項に関して取締役会が検討するに当り、本委員会が適切な答申を行うことで取締役会の機能の独立性・客観性と説明責任を強化しています。

東京ドームグループのコーポレート・ガバナンス体制



PICK UP 安全への取り組み

すべての事業においてお客様に安心して楽しんでいただける場を持続的に提供していけるよう、さまざまな安全対策を講じています。「安全こそが当社グループの存立基盤である」ことを強く認識し続けるため、2011年4月21日に「安全理念・安全基本方針」(P1参照)を制定・施行しました。この理念・方針のもと、常に日々新たな気持ちで「安全文化」を築き上げるための努力を継続します。

全社的な取り組み

お客様および従業員に対する総合的な安全管理体制構築の推進を所轄する部署として、当社代表取締役社長直轄の安全推進室を設置。2014年4月25日には担当役員を選任し、さらなる機能の強化を図りました。また、当社代表取締役社長が統括安全管理者に就任し、経営において安全面を重視して判断する責任を負うこととしました。安全推進室は、年次総合安全計画の策定、総合安全活動に関する企画立案、総合安全活動の推進、安全監査、年次総合安全報告書の策定などを担当し、安全確保の施策全般をスパイラルアップさせていくためのPDCAサイクルの仕組みをつくり、機能・維持していきます。

東京ドームシティ アトラクションズの取り組み

東京ドームシティ アトラクションズでは、以下の安全対策を確立し、実施運用しています。

1 各アトラクションが依拠すべき安全基準の策定

〈総合安全基準〉

1. アトラクション機器、施設設備に関わるリスクを網羅的に洗い出し、適切な対策を実施すること
2. アトラクション機器、施設設備の安全性を維持するために、十分な点検、検査、修繕等を実施すること
3. お客様に安全にご利用いただくための補助、確認、情報案内・掲示を確実に行うこと
4. 緊急時にお客様に安全に退避してもらう手段を確立すること
5. 従業員は、施設内で危険を察知した際は、躊躇せず安全を第一に考えた行動を取ること
6. 継続的な教育・訓練によって、従業員の安全に関する意識、知識、能力の向上を図り、社内に安全文化を定着させること
7. 上記1から6の事項が適切に実施されていることを常にモニタリングし、絶え間なく安全性の維持・向上に努めること

2 安全基準に基づく遊戯施設運行管理規定、オペレーションマニュアルの整備

3 安全基準に基づく施設面の整備等

4 社内教育体制の整備とオペレーションマニュアル厳守の徹底

5 安全対策の履行状況全体に対する適切なモニタリングシステムの整備

6 安全の確保を最優先とするにふさわしい組織と人員配置の追求

7 総合的な安全管理体制(安全マネジメントシステム)の構築

「安全の日」と「安全週間」

当社グループの全従業員が、「安全理念・安全基本方針」のもと、安全に対する強い意識を新たにする日として、1月30日を「安全の日」と制定しています。

また、1月30日から2月5日までの1週間を「安全週間」とし、各事業所や各施設における安全の総合点検、統括安全管理者による安全巡視を行っています。



「安全週間」統括安全管理者による安全巡視

「安全教育室」の設置



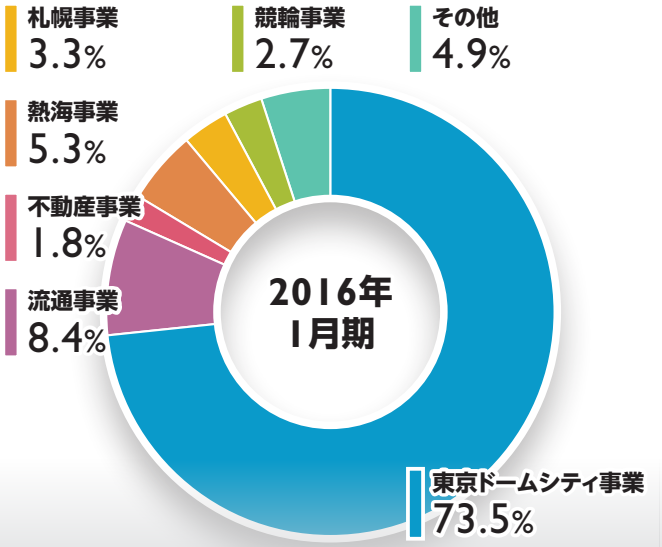
安全教育室



安全研修

東京ドームシティ アトラクションズを運営するアミューズメント部の事務所内に、2012年1月30日、「安全教育室」を設置しました。2011年1月30日のお客様死亡事故時の「スピニングコースター舞姫」車両の一部や、当該事故の概要などのパネルを展示し、事故の風化を防ぐとともに、安全文化の醸成と安全意識の向上のために、全従業員の安全教育の場として活用しています。

売上高構成比

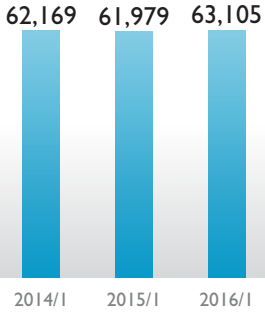


東京ドームシティ事業

東京ドームのイベント開催数の増加と、これに伴う宿泊や訪日外国人の増加で東京ドームホテルの宿泊部門が好調に推移し、売上高は63,105百万円（前期比1.8%増）、営業利益は15,385百万円（前期比6.9%増）となりました。

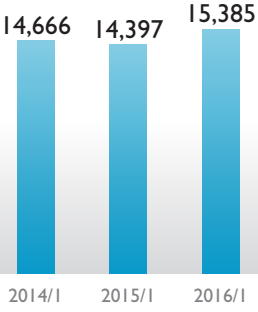
売上高

63,105百万円
前期比 1.8%



営業利益

15,385百万円
前期比 6.9%

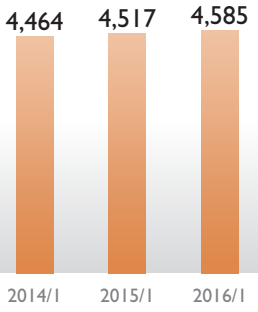


熱海事業

個人およびグループでの宿泊利用が増加し、売上高は4,585百万円（前期比1.5%増）、営業利益は359百万円（前期比2.3%増）となりました。

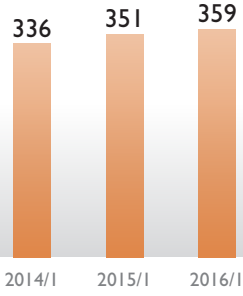
売上高

4,585百万円
前期比 1.5%



営業利益

359百万円
前期比 2.3%

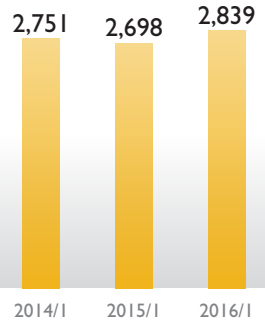


札幌事業

国内外からの来道者が堅調で、宿泊部門において客室稼働率、単価ともに上昇し、売上高は2,839百万円（前期比5.2%増）、営業利益は38百万円（前期は32百万円の損失）となりました。

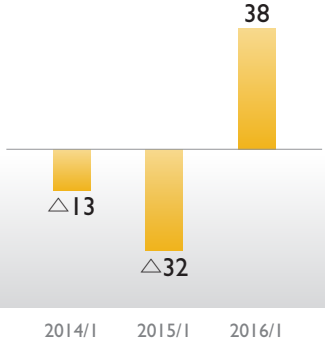
売上高

2,839百万円
前期比 5.2%



営業利益

38百万円



各事業の売上高は、セグメント間取引を含んでいません。

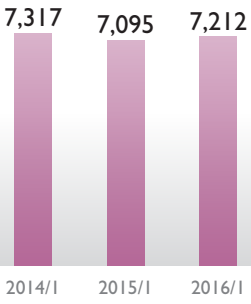
流通事業

既存店の好調や大型新店の開業により、売上高は7,212百万円（前期比1.6%増）、営業損失は18百万円（前期は36百万円の損失）となりました。

売上高

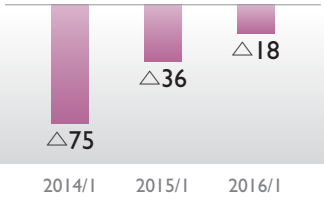
7,212百万円

前期比 1.6%



営業利益

△18百万円



不動産事業

前期に開業した新規テナントの通期稼働により、売上高は1,560百万円（前期比1.8%増）、営業利益は565百万円（前期比7.9%増）となりました。

売上高

1,560百万円

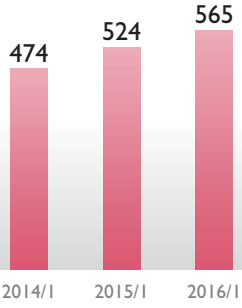
前期比 1.8%



営業利益

565百万円

前期比 7.9%



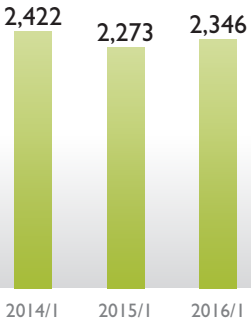
競輪事業

競輪場ほか施設の整備工事などの経費負担があり、売上高は2,346百万円（前期比3.2%増）、営業利益は115百万円（前期比10.7%減）となりました。

売上高

2,346百万円

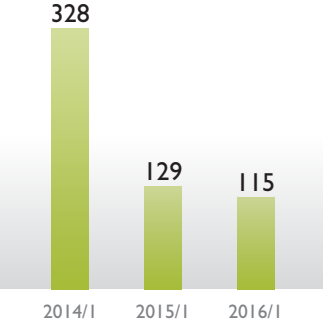
前期比 3.2%



営業利益

115百万円

前期比 10.7%



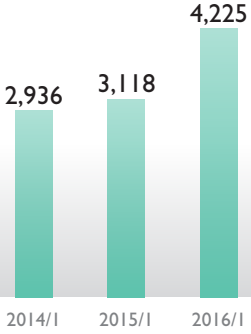
その他

指定管理者制度によるスポーツ施設の運営受託の増加により売上高は4,225百万円（前期比35.5%増）、営業利益は142百万円（前期比27.3%増）となりました。

売上高

4,225百万円

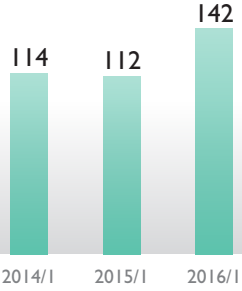
前期比 35.5%



営業利益

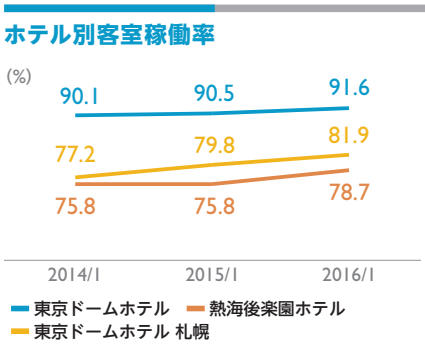
142百万円

前期比 27.3%



事業別内訳参考データ一覧

施設名・事業名	売上高（百万円）			来場者数（千人）		
	2014年1月期	2015年1月期	2016年1月期	2014年1月期	2015年1月期	2016年1月期
東京ドームシティ事業※2						
東京ドーム（自主興業売上を含む）	13,672	13,518	13,977	8,354	8,124	8,464
飲食店および物販店（直営、コンサートなどのグッズ販売を含む）	16,545	15,929	15,550	—	—	—
東京ドームエリア	14,730	14,314	14,440	—	—	—
その他	1,815	1,615	1,110	—	—	—
LaQua	5,968	6,171	6,087	13,600	14,200	15,000
Spa LaQua	3,445	3,540	3,424	710	750	750
東京ドームシティ アトラクションズ※3	2,667	2,956	3,104	4,679	4,948	5,565
シアターGロッソ	—	—	—	333	338	310
ASOBono!	375	364	370	371	363	369
黄色いビル	4,753	4,540	4,488	—	—	—
WINS後楽園（テナント）	—	—	—	3,917	3,579	3,218
o f f t 後楽園（テナント）	—	—	—	1,047	982	1,081
宇宙ミュージアム TeNQ	—	470	407	—	248	218
スポドリ!	70	232	249	62	188	194
東京ドーム ローラースケートアリーナ	86	105	105	84	99	96
東京ドームボウリングセンター	337	357	371	214	223	231
MEETS PORT	1,423	1,478	1,697	3,465	3,465	3,464
TOKYO DOME CITY HALL	632	663	717	598	648	526
後楽園ホール	503	507	535	359	375	394
PRISM HALL	526	449	605	569	537	599
東京ドームホテル	13,410	13,280	13,880	1,970	1,909	1,923
流通事業						
shop in	7,317	7,095	7,212	—	—	—
不動産事業						
アドホック新宿ビル・プチモール二ツ木・柿の木坂BMWビル	1,501	1,532	1,560			
熱海事業						
熱海後楽園ホテルなど	4,464	4,517	4,585			
札幌事業						
東京ドームホテル 札幌など	2,751	2,698	2,839			
競輪事業						
松戸競輪場・サテライト大和・サテライト船橋	2,422	2,273	2,346			
その他の事業						
スポーツ施設の運営受託、生命・損害・医療保険代理店事業など	2,936	3,118	4,225			



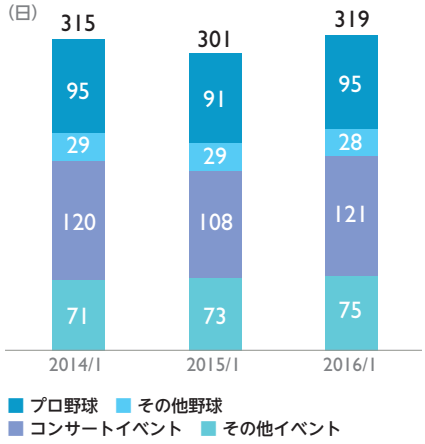
※1 各事業の売上高は、社内取引を含んでいません。
※2 東京ドームシティの各施設の数値は東京ドームシティ事業の傾向を把握していただくものであり、主要施設のみ抽出し参考値として表示してあります。
よって各施設の売上高の合計は34ページの事業別業績ハイライトの東京ドームシティ事業の数値とは一致しません。
※3 東京ドームシティ アトラクションズの来場者数は、アトラクションの利用者数。

	施設概要		
	開業日	面積等	施設規模
	1988年 3月17日	建築面積 46,755m² グラウンド 13,000m²	地上6階・地下2階 高さ 地上56.19m グラウンド 61.69m 容積 124万m³ 収容人数（目安）野球46,000人 コンサート55,000人
	東京宝島、BALL PARK STOREなど、東京ドーム内外のレストラン、ショップ		
	2003年 5月 1日	敷地面積 16,000m² 延床面積 55,500m²	地上9階・地下2階
	2003年 5月 1日	延床面積 10,000m²	ラクーアビル5階～9階 泉質 ナトリウム－塩化物強塩泉
	1955年 7月 9日	敷地面積 30,000m²	アトラクション数 24種類
	2009年 4月25日	—	ジオポリス地下1階～地上1階 収容人数 765人
	2011年 8月19日	敷地面積 1,720m²	プレイエリア 5箇所 対象年齢 0歳～12歳 定員 500人
	1973年 4月20日	敷地面積 11,735m²	地上10階・地下1階
	1949年 4月16日	—	黄色いビル1階～9階
	1987年 6月14日	—	黄色いビル1階
	2014年 7月 8日	フロア面積 2,600m²	黄色いビル6階
	2013年 9月14日	フロア面積 2,600m²	黄色いビル3階 野球エリア、ゴルフエリア、 ボルダリングエリア、多目的フィールド
	2011年12月22日	フロア面積 1,600m²	黄色いビル4階 40m×24mのメインリンク、 ミニリンクエリア、ダンスエリア
	1962年 4月16日	延床面積 3,600m²	黄色いビル4階～5階 全54レーン
	2008年 3月19日	敷地面積 6,579m² 延床面積 21,405m²	地上5階・地下4階
	2008年 3月19日	延床面積 12,300m²	MEETS PORT地下3階～地上2階 収容人数 3,000人
	1962年 4月16日	ホール 575m² 展示会場 198m²	後楽園ホールビル5階～6階 収容人数 2,005人
	1990年12月17日	フロア面積 2,809m²	天井高5m 収容人数 2,085人
	2000年 6月 1日	敷地面積 15,865m² 延床面積 105,856m²	地上43階・地下3階 高さ155m 1,006室
	1号店（新宿） 1971年12月 1日		42店舗（2016年1月期末時点）

施設名	宿泊者数（千人）			宴会件数（件）			婚礼件数（件）		
	2014年1月期	2015年1月期	2016年1月期	2014年1月期	2015年1月期	2016年1月期	2014年1月期	2015年1月期	2016年1月期
東京ドームホテル	521	528	539	2,308	2,182	2,236	282	273	231
熱海後楽園ホテル	201	203	209	—	—	—	—	—	—
東京ドームホテル 札幌	141	147	150	2,649	2,611	2,544	211	139	146

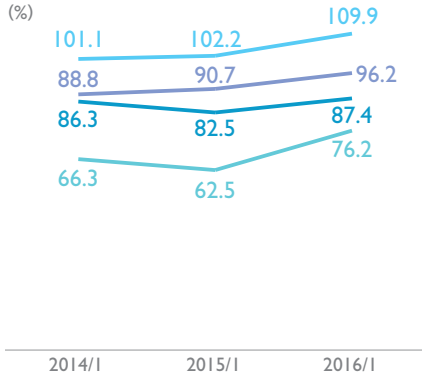
東京ドーム イベントジャンル別稼動日数

※本番のほかに設営・撤去を含む



イベントホール稼働率

※本番のほかに設営・撤去を含む



東京ドームシティ内主要施設別テナント売上



損益の状況

(百万円)

	2015/1	2016/1	増減率 (%)
売上高	83,215	**85,875**	3.2
営業利益	11,270	**12,737**	13.0
経常利益	9,136	**10,636**	16.4
当期純利益	7,441	**4,559**	△ 38.7

東京ドームにおける野球・コンサートイベントの開催数の増加や、訪日外国人の観光需要を受けた東京ドームホテルが好調に推移したことなどにより、売上高は85,875百万円(前期比3.2%増)、営業利益は12,737百万円(前期比13.0%増)、経常利益は10,636百万円(前期比16.4%増)となりました。当期純利益については、今夏に一部施設の営業を終了する熱海後楽園ホテルに係る撤去関連費用について引き当て計上をしたため、当期純利益は4,559百万円(前期比38.7%減)となりました。

総資産、負債および純資産の状況

(百万円)

	2015/1	2016/1	増減額
資産合計	304,484	**302,715**	△1,769
流動資産合計	22,338	**26,773**	4,434
固定資産合計	280,665	**274,299**	△6,366
繰延資産合計	1,480	**1,642**	162
負債合計	223,795	**216,403**	△7,392
流動負債合計	71,588	**70,195**	△1,393
固定負債合計	152,206	**146,207**	△5,999
純資産合計	80,688	**86,312**	5,623
株主資本合計	20,163	**22,463**	2,299
その他の包括利益累計額合計	60,525	**63,848**	3,323
土地再評価差額金	50,956	**53,871**	2,915

資産　流動資産については、年間シートの入金の早期化により現金及び預金が増加し、26,773百万円(前期末比4,434百万円増)となりました。

固定資産については、有形固定資産の減価償却が進んだほか、税制改正に伴い繰延税金資産の取り崩しを行い、274,299百万円(前期末比6,366百万円減)となりました。

その結果、資産合計は、302,715百万円(前期末比1,769百万円減)となりました。

負債　有利子負債の圧縮が順調に進み、有利子負債(長期・短期借入金、社債の合計)は、158,644百万円(前期末比7,440百万円減)となりました。

その結果、負債合計は、216,403百万円(前期末比7,392百万円減)となりました。

純資産　株主資本については、利益剰余金が当期純利益の計上により増加し、22,463百万円(前期末比2,299百万円増)となりました。

その他の包括利益累計額については、税制改正に伴う再評価に係る繰延税金負債の取り崩しにより、土地再評価差額金が増加し、63,848百万円(前期末比3,323百万円増)となりました。

その結果、純資産合計は、86,312百万円(前期末比5,623百万円増)となりました。

キャッシュ・フローの状況

（百万円）

	2015/1	2016/1	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	17,131	**19,405**	2,274
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,102	**△6,367**	△265
フリーキャッシュ・フロー	11,029	**13,038**	2,008
財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,563	**△10,310**	△746
現金及び現金同等物の期末残高	14,561	**17,289**	2,727

営業活動によるキャッシュ・フロー　東京ドームにおける野球・コンサートイベントの開催数の増加や、訪日外国人の観光需要を受けた東京ドームホテルが好調に推移したことなどにより19,405百万円の収入となり、前期比で2,274百万円の増収となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー　既存設備の更新などにより6,367百万円の支出となり、前期比で265百万円の支出増となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー　有利子負債の削減が順調に進んだことなどにより10,310百万円の支出となり、前期比で746百万円の支出増となりました。

2017年1月期の見通し

（2016年6月10日発表）

（百万円）

	2016/1	2017/1	増減率（%）
売上高	85,875	**82,300**	△4.2
営業利益	12,737	**10,400**	△18.3
経常利益	10,636	**8,900**	△16.3
（親会社株主に帰属する）当期純利益	4,559	**5,600**	22.8

2017年1月期の業績については、東京ドームホテル、東京ドームホテル 札幌においては、訪日外国人の増加により引き続き高稼働・高単価で推移すると見込まれる一方で、東京ドームにおいては、当期開催されたクライマックスシリーズの開催を見通しとしては見込んでいないこと、また熱海後楽園ホテル・みさき館が、2016年8月末をもって営業終了となることもあり、減収となる見通しです。

また東京ドーム、熱海後楽園ホテル・タワー館においては、より高品質・高機能なサービスによる高付加価値化を目的とした改修などがあり、これに伴う費用も発生する見通しです。

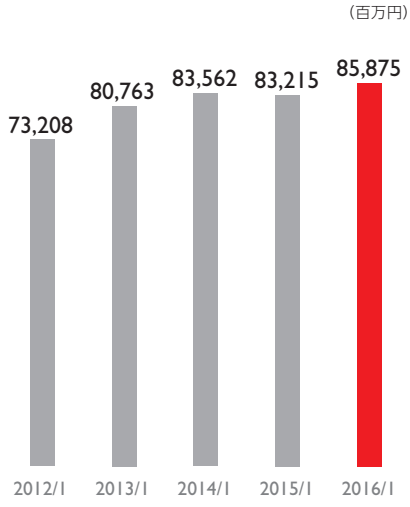
業績予想に関する留意事項

当レポートに掲載されている2017年1月期および将来に関する記述は、当社および当社グループが現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づいていますが、リスクや不確実性を含んでいます。よって、実際の業績はさまざまな要因により、記述されている業績予想とは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要因には、当社および当社グループの事業を取り巻く経済環境、市場動向、為替レートの変動などが含まれています。

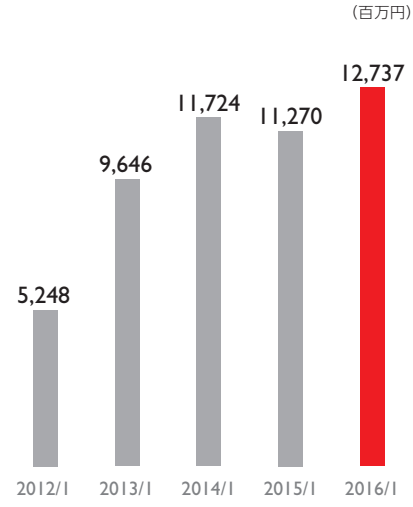
Consolidated Financial Highlights
連結財務ハイライト

株式会社東京ドームおよび連結子会社 1月31日で終了した1年間	2012/1	2013/1	2014/1	2015/1	**2016/1**
貸借対照表データ(百万円)					
資産合計	297,848	300,690	304,595	304,484	**302,715**
流動資産合計	18,752	19,247	21,357	22,338	**26,773**
固定資産合計	277,553	279,637	281,568	280,665	**274,299**
繰延資産合計	1,543	1,806	1,668	1,480	**1,642**
負債合計	245,421	239,235	230,163	223,795	**216,403**
流動負債合計	80,558	75,944	76,580	71,588	**70,195**
固定負債合計	164,862	163,291	153,582	152,206	**146,207**
純資産合計	52,427	61,455	74,432	80,688	**86,312**
株主資本合計	2,762	6,609	13,683	20,163	**22,463**
その他の包括利益累計額合計	49,664	54,845	60,748	60,525	**63,848**
土地再評価差額金	50,872	50,977	50,956	50,956	**53,871**
損益計算書データ(百万円)					
売上高	73,208	80,763	83,562	83,215	**85,875**
売上原価	62,016	65,306	66,424	66,396	**67,858**
一般管理費	5,943	5,810	5,413	5,548	**5,280**
営業利益	5,248	9,646	11,724	11,270	**12,737**
経常利益	2,336	7,410	9,318	9,136	**10,636**
当期純利益	362	3,914	8,077	7,441	**4,559**

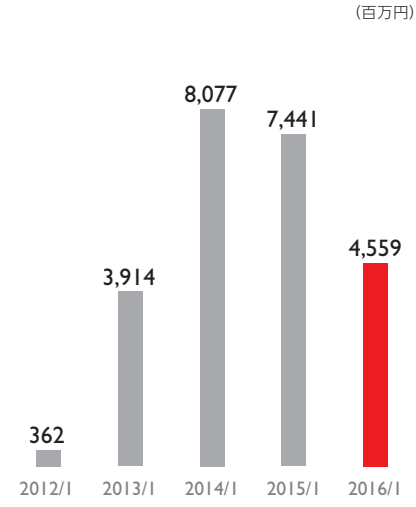
売上高



営業利益



当期純利益

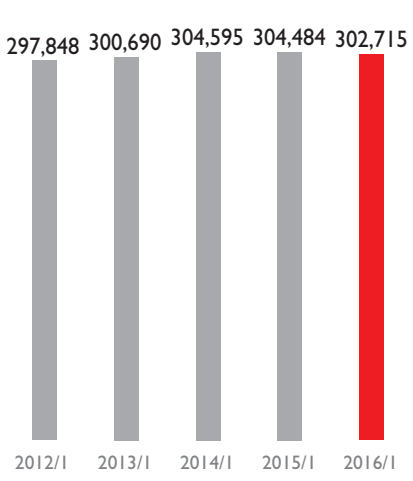


2012 2016

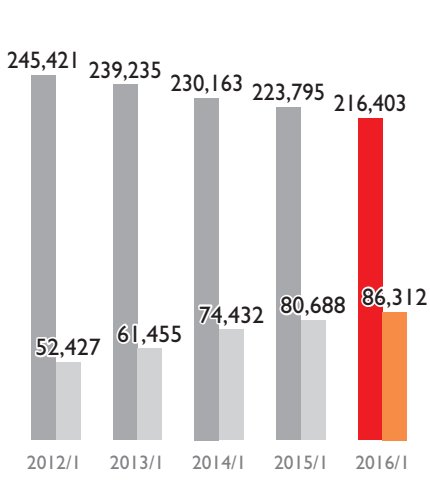
	2012/1	2013/1	2014/1	2015/1	**2016/1**
1株当たり情報(円)					
1株当たり当期純利益※	1.90	20.53	42.36	39.04	**23.92**
1株当たり配当額	—	5	5	6	**6**
1株当たり純資産	275.10	322.19	390.42	423.27	**452.82**
財務指標(%)					
売上高営業利益率	7.2	11.9	14.0	13.5	**14.8**
売上高当期純利益率	0.5	4.8	9.7	8.9	**5.3**
自己資本利益率(ROE)	0.7	6.9	11.9	9.6	**5.5**
総資産経常利益率(ROA)	0.8	2.5	3.1	3.0	**3.5**
自己資本比率	17.6	20.4	24.4	26.5	**28.5**
D/Eレシオ(倍)	3.6	3.0	2.3	2.1	**1.8**
その他の指標(百万円)					
設備投資額	8,804	5,309	5,244	6,686	**5,853**
減価償却費	7,744	7,697	7,223	7,326	**7,517**
有利子負債残高	190,167	181,230	172,769	166,085	**158,644**

※1株当たり当期純利益は各年度の発行済普通株式数の加重平均値をベースに算出しています。

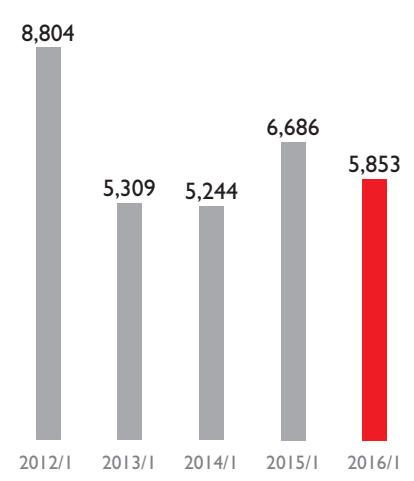
資産合計



負債合計・純資産合計



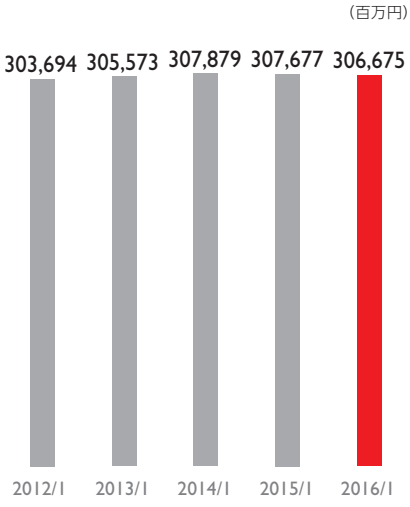
設備投資額



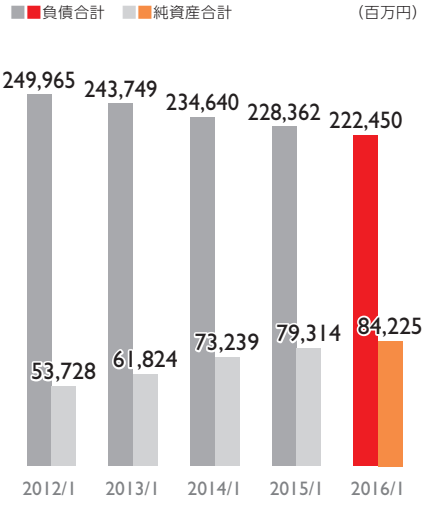
個別財務ハイライト

株式会社東京ドーム 1月31日で終了した1年間	2012/1	2013/1	2014/1	2015/1	**2016/1**
貸借対照表データ(百万円)					
資産合計	303,694	305,573	307,879	307,677	**306,675**
流動資産合計	11,375	12,573	14,340	14,936	**18,992**
固定資産合計	290,775	291,193	291,870	291,260	**286,040**
繰延資産合計	1,543	1,806	1,668	1,480	**1,642**
負債合計	249,965	243,749	234,640	228,362	**222,450**
流動負債合計	78,187	73,605	74,193	68,902	**66,975**
固定負債合計	171,778	170,144	160,447	159,459	**155,475**
純資産合計	53,728	61,824	73,239	79,314	**84,225**
株主資本合計	2,341	5,485	11,358	17,330	**19,176**
評価・換算差額等合計	51,387	56,338	61,881	61,984	**65,048**
土地再評価差額金	52,456	52,562	52,540	52,540	**55,307**
損益計算書データ(百万円)					
売上高	51,222	57,055	59,256	59,061	**59,679**
売上原価	40,947	43,570	45,067	44,822	**44,874**
一般管理費	4,237	4,236	4,008	4,054	**3,737**
営業利益	6,037	9,249	10,181	10,184	**11,067**
経常利益	3,199	6,906	7,924	8,121	**9,186**
当期純利益(損失)	△163	3,254	6,875	6,933	**4,105**

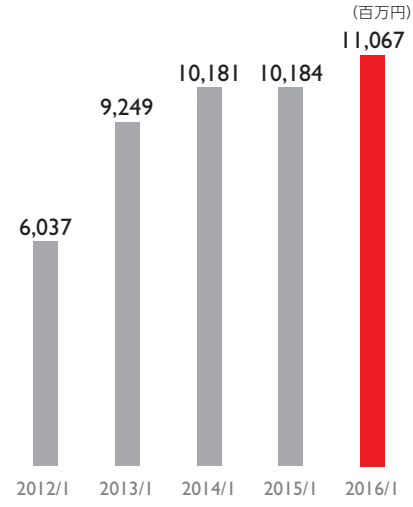
資産合計



負債合計・純資産合計



営業利益



会社概要

商号	株式会社東京ドーム TOKYO DOME CORPORATION
本社	〒112-8575 東京都文京区後楽1丁目3番61号
電話	03-3811-2111（代表）
URL	http://www.tokyo-dome.jp
設立	1936年（昭和11年）12月25日
資本金	2,038百万円
従業員数	813名

役員（2016年4月27日現在）

取締役	代表取締役会長 執行役員	久代　信次
	代表取締役社長 執行役員	長岡　勤
	専務取締役 執行役員	野村　龍介
	専務取締役 執行役員	山住　昭宏
	常務取締役 執行役員	谷口　好幸
	常務取締役 執行役員	西勝　昭
	常務取締役 執行役員	小田切　吉隆
	取締役（社外・独立）	秋山　智史
	取締役（社外・独立）	森　信博
	取締役（社外・独立）	井上　義久
監査役	常勤監査役	田中　雅昭
	常勤監査役	田中　毅
	監査役（社外）	堤　淳一
	監査役（社外）	野﨑　幸雄
	監査役（社外・独立）	児玉　幸治
執行役員	常務執行役員	永田　有平
	常務執行役員	柴田　馨
	執行役員	久岡　公一郎
	執行役員	大坪　龍太
	執行役員	手島　康彦
	執行役員	岩瀬　敬之
	執行役員	大川　大作

株式情報

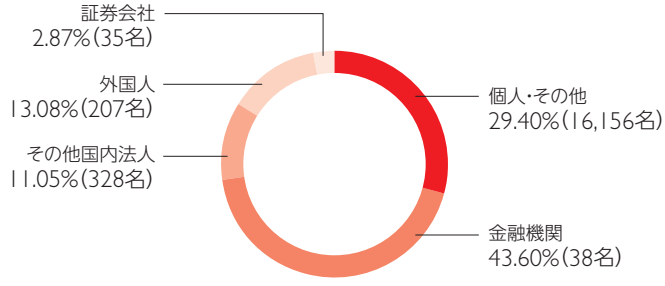
発行可能株式総数	396,000,000株
発行済株式総数	191,714,840株
株主数	16,765名（自己株式1名を含む）
上場取引所	東京証券取引所　市場第一部 証券コード：9681
定時株主総会	毎年4月、東京にて開催
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社 〒100-8233 東京都千代田区丸の内1丁目4番1号

大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数（千株）	持株比率（%）※
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	17,501	9.17
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	13,443	7.05
株式会社みずほ銀行	9,064	4.75
富国生命保険相互会社	8,553	4.48
株式会社竹中工務店	6,686	3.50
資産管理サービス信託銀行株式会社（証券投資信託口）	2,948	1.54
資産管理サービス信託銀行株式会社（投信受入担保口）	2,727	1.43
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	2,626	1.37
日本生命保険相互会社	2,609	1.36
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口9）	2,579	1.35

※ 持株比率は、自己株式（1,039,245株）を控除して計算し、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

所有者別株式分布状況



※パーセンテージは持株比率（自己株式を除く）

連結子会社（12社）

会社名	事業セグメント
株式会社東京ドームホテル	東京ドームシティ事業
株式会社東京ドーム ファシリティーズ	東京ドームシティ事業
株式会社東京ドームスポーツ	東京ドームシティ事業・その他
後楽園事業株式会社	東京ドームシティ事業
松戸公産株式会社	不動産事業・競輪事業
後楽園不動産株式会社	不動産事業
株式会社後楽園フードサービス	不動産事業
株式会社東京ドーム・リゾートオペレーションズ	熱海事業
株式会社札幌後楽園ホテル	札幌事業
進商事株式会社	その他
オリンピア興業株式会社	その他
株式会社後楽園ロコモティブ	その他

持分法適用関連会社

会社名	事業セグメント
花月園観光株式会社	競輪事業
東京ケーブルネットワーク株式会社	その他
TERREY HILLS GOLF AND COUNTRY CLUB HOLDINGS LTD. ※	その他

※TERREY HILLS GOLF AND COUNTRY CLUB HOLDINGS LTD.は2016年3月10日に事業譲渡しました。

主要なグループ会社のご紹介

株式会社東京ドームホテル



住所　〒112-8562 東京都文京区後楽1丁目3番61号
電話　03-5805-2111（代表）
設立　1999年2月1日
主な事業内容　東京ドームホテル経営

株式会社東京ドームファシリティーズ



住所　〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目3番61号
電話　03-3817-6164
設立　1985年2月1日
主な事業内容　総合ビルメンテナンス業（清掃管理・設備保守・警備業務）

株式会社東京ドームスポーツ



住所　〒112-0003 東京都文京区春日1-1-1 ラクーアビル7F
電話　03-3817-4001
設立　1981年3月31日
主な事業内容　スポーツクラブ・温浴施設などの運営・管理およびその受託

松戸公産株式会社



住所　〒271-0091 千葉県松戸市本町8番地の3
電話　047-366-2121（代表）
設立　1949年5月16日
主な事業内容　松戸競輪場の賃貸と運営受託、不動産の賃貸および管理

株式会社東京ドーム・リゾートオペレーションズ



住所　〒413-8626 静岡県熱海市和田浜南町10-1
電話　0557-82-5460（総務）
設立　2000年3月17日
主な事業内容　熱海後楽園ホテル経営

株式会社札幌後楽園ホテル



住所　〒060-0042 札幌市中央区大通西８丁目
電話　011-261-0111（代表）
設立　1987年2月1日
主な事業内容　東京ドームホテル 札幌経営

HISTORY
沿革

1936年	12月 25日	(株)後楽園スタヂアム創立
1937年	1月 18日	(株)後楽園野球クラブ(球団名 イーグルス)設立　～1938年株式譲渡　※1943年解散
	9月 11日	後楽園スタヂアム(球場)開場　～1987年閉場　**[写真1]**
1942年	9月 26日	後楽園不動産(株)設立
1946年	10月 11日	後楽園スタヂアム3階に囲碁・将棋遊技場オープン 以降、多角経営に進出
1949年	5月 12日	東京証券取引所に株式上場登録
	7月 27日	大阪証券取引所に株式上場登録　～2009年上場廃止
	10月 31日	後楽園競輪場開場～1973年都営競輪廃止後、後楽園競技場と改称し夏期はプール、冬期はゴルフ練習場として営業／1984年閉場
1955年	7月 9日	後楽園ゆうえんち(現・東京ドームシティ アトラクションズ)開場　**[写真2]**
1959年	12月 20日	石打後楽園スキー場、翌年10月石打後楽園カントリークラブ開場 以降、リゾート事業に進出　～2007年事業譲渡
1962年	4月 16日	後楽園ボウリング会館(現・後楽園ホールビル)全館開場
1965年	8月 1日	熱海後楽園(現・熱海後楽園ホテル)開場
1969年	7月 9日	進商事(株)設立
1971年	12月 1日	SHOP IN KORAKUEN(現・shop in)1号店「新宿店」オープン　～1989年クローズ
1973年	4月 20日	黄色いビル開場　**[写真3]**
1977年	11月 30日	黄色いビル別館開場
1980年	2月 1日	(株)後楽園フアイナンス設立　～2006年株式譲渡
1981年	3月 31日	(株)後楽園スポーツ(現・(株)東京ドームスポーツ)設立
1985年	1月 17日	(株)後楽園総合サービス(現・(株)東京ドームファシリティーズ)設立
	10月 28日	(株)大阪後楽園ホテル設立　～2002年清算
1986年	10月 24日	大阪後楽園ホテル開場 以降、シティホテル事業に進出　～2001年閉場
1987年	2月 1日	(株)札幌後楽園ホテル設立
1988年	3月 17日	東京ドーム開場　**[写真4]**
	6月 20日	札幌後楽園ホテル(現・東京ドームホテル 札幌)開場
1990年	9月 1日	(株)東京ドームに社名変更
	12月 17日	PRISM HALL開場
1992年	7月 1日	ジオポリス開場
1996年	2月 1日	(株)東京ドーム・マーチャンダイジング設立
1999年	2月 1日	(株)東京ドームホテル設立
2000年	1月 1日	東京ドームシティに名称変更
	3月 17日	(株)東京ドーム・リゾートオペレーションズ設立
	6月 1日	東京ドームホテル開場
2003年	5月 1日	LaQua開場　**[写真5]**
2004年	12月 1日	松戸公産(株)を株式交換により完全子会社化
2008年	3月 19日	MEETS PORT開場　**[写真6]**
2014年	7月 1日	「青いビル」を「後楽園ホールビル」へ名称変更(外装リニューアル)


1



2


3


4


5


6

株式会社 東京ドーム

〒112-8575 東京都文京区後楽1丁目3番61号
TEL: 03-3811-2111（代表）
URL: http://www.tokyo-dome.jp

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C022915

Waterless Printing. Naturally.

VEGETABLE OIL INK